

2023 March

東京都市大学 校友会  
TOKYO CITY UNIVERSITY ALUMNI ASSOCIATION

# 都市

vol.10



# 人生100年時代 あなたに求められている取り組み そしてその先に

東京都市大学校友会 会長  
松村慶一

人生100年時代にあつて「学びの力」を考える事が求められています。

「社会人になる」とは、教育課程を終え学びを終えることを意味していました。しかし、社会情勢の変化とテクノロジーの進展が速い今の社会において「社会人になる」とは、「学びを終えること」ではなく「働きながら学び続け変わり続けること」を意味する言葉になっています。多様性が変化し続ける時代の中で、学んだ「先」、社会人として個々に必要とするスキル、求められるスキルを探求、獲得し続けることが求められます。そしてさらに、仕事をした「先」に何を望み、どのような人生の軌跡を描くのか。人生100年時代にひとりひとりが考えなければならない時代です。

個々の心の豊かさ、生活の豊かさ、人生の豊かさを最大化することで、そしてそれを相互共有、共助することで、社会の豊かさを導くことができるのではないのでしょうか。

そこで重要なのがダイバーシティー（多様性）、そして新たな技術技能を身につける「リスキリング(学び直し)」です。

社会生活の中で様々な意見を持った人と、一人ひとりの個性を尊重し、互いに尊敬し協調していくことが究極のダイバーシティーといえるのではないのでしょうか。

これまではないスピードで社会情勢は変化し、その変化に対応するためには従来とは異なるスキルを、時代の趨勢にあったスキルを獲得し続ける必要があります。キャリアや人生をデザインする力が大きな意味を持つことになります。

生涯にわたって「学び」が求められる。その結果が「創造的な知恵」「教養」にもなります。

皆さんは、卒業して社会人として様々な命題に取り組み成果を導いてきています。それが知財であり、教養ではないのでしょうか。その多様な成果を、卒業生同士の財産として共有できた時には、そしてその輪が広がることで卒業生皆さんの人生に豊かさをもたらすことになるものと思います。そして社会の豊かさを導くことになるものと思います。

校友会は、これまでの卒業生同士の親睦だけでなく、知育をはぐくむ交流の場を提供していく取り組みを進めます。

「生涯キャリアサポートプログラム」を立ち上げました。そのはじめとして昨年11月に開催した講演会「人生100年時代を楽しむ4つのポイント」とその後の意見交換会では、各世代毎の多様な「学び」のニーズ、世代を超えた「教養」「趣味」のニーズがわかりました。

校友会は、卒業生の皆さんが保有する知的財産を相互に共有する「生涯キャリアサポートプログラム」（相互のリスキリング、教養、趣味、社会活動などの醸成）を通じて、生涯スキルを磨き続けるきっかけを提供したいと考えています。そこに新たな校友会の輪が広がるものと信じています。



大分支部総会にて

# 「大学の可能性」

東京都市大学 学長  
東京都市大学校友会 顧問  
**三木 千壽**



大学は2020年よりコロナ禍に振り回されてきました。当初、講義は全面的にオンラインに変えましたが、2021年11月より対面に戻しました。しかし、オンラインで受講することも可能とし、講義はすべて録画され、ハイブリッド形式とも言えます。この間、様々なメディアを活用しての講義を実施してきましたが、その長所も短所も見えてきました。公開されている講義録画や、教育フロントランナー受賞者の講義を見せていただくと、講義方法はどんどん改善されており、今後の展開が大変楽しみです。いわゆるメディアを活用した授業は、これからの大学教育の重要な構成要素となってくると考えられます。

最近、この分野での大きな動きは、MOOCs (Massive Open Online Courses) です。これは、e-baseの大規模で開かれた講義であり、修了証明を得ることができるプログラムです。これまで様々なプログラムが提供されていますが、その中でも、世界のトップクラスの大学・機関による Coursera (コーセラ) と edX (エデックス) が有名です。この2つのプラットフォームへの登録者数合計は3,000万人以上に達しているとのこと。東大は2013年9月より Coursera で2コースを提供して以降、2021年4月現在で全19コース (Coursera 9コース、edX 10コース) を提供しているそうです。

日本では2013年に設立された JMOOCs が代表的なプラットフォームであり、本学は2021年、JMOOCs の会員となりました。今後、講義を提供していく予定です。文部科学省からの公募事業などでは、JV-Campus (Japan Virtual Campus) を使うことが応募条件になっているものが多くあります。JV-Campus は、「オールジャパンで結成する国際的なオンライン教育プラットフォーム」であり、JMOOCs の国際版とも言えます。

世界的に目を開いてみると、新しい教育形態の大学がどんどん出現しています。その中でも、ミネルバ大学には関心を持っています。米国サンフランシスコに本部を置く大学であり、2012年9月に開校されています。ぜひ、インターネットで調べてみてください。

以下はインターネットから得られたミネルバ大学の情報

です。

- ・全寮制私立の総合大学であり、特定のキャンパスを有していない。
- ・学生は4年間で世界7都市に移り住みながら、オンライン授業を受講する。
- ・授業は1クラス19名を上限とする少数編成のセミナー形式であり、学生は一同に介して、教授の話の聞き、ディスカッションを行う。つまり、離れた場所にいる教授が、生徒の集まる教室に「チェックイン」する形式で講義が構成される。このようなオンライン講義のプラス面として、次のようなことが紹介されています。
- ・講師のモニターには一人一人の表情、作業の手元がはっきり映り、やる気や理解度が手に取るようにわかる。
- ・個人の発言時間を自動的に計測し、発言量のバランスも見ながらクラスを進行できる。
- ・発言時間は成績に反映される。

ここで示されているミネルバ大学の講義は、オンラインでしか実現できない教育方法と言え、オンライン教育の弱点を見事に克服しています。今の技術からすれば、自動筆記、即時テキスト化、数値データ化も難しいことはありません。

教育へどのようにICTを活用して教育効果を高めるのか、そのカリキュラム構成などについて研究する必要があるのではないのでしょうか。また、ICT導入に関して、教員の研修機会や支援体制、そのための専門的な部署とスタッフ、学生への支援体制、講義の評価システムの見直しなども気になるところです。

2023年4月、横浜キャンパスに「デザイン・データ科学部」を開設します。データを科学する「データサイエンス」を基盤にマネジメントとデザイン（構想力）の視点を加え、全く新しい学びを始動させます。技術がさらに高度化する「Society5.0」の社会を迎えるにあたり、ICT環境の整備・活用は極めて重要な局面にきています。海外と比較して日本の教育にはまだまだ課題があると言わざるをえません。コロナ禍は変わるチャンス、この先を見据え変革の好機と捉えて進んでまいりますので、今後も大学の動きにご注目いただければ幸いです。

# 校友会2023年 10周年記念事業

東京都市大学は2009年に校名変更し、4年後の2013年4月に第一期生を輩出しました、第一期生の卒業を期して、これまでの卒業生の会である武蔵工業会（旧武蔵工業大学）、美砂会（旧東横学園女子短期大学）を統合し東京都市大学校友会が発足しました。そして本年2023年4月に校友会は発足10周年を迎えます。

発足10周年を迎えるにあたり、これまでの10年間を振り返るとともに、先の10年後、そして2029年の東京都市大学創立100周年に向けてそのきっかけとなる行事として「校友会10周年記念事業」を企画し実行しています。ここにその記念行事を紹介します。この記念事業に多くの方々の参加を期待します。

## 校友会10周年記念事業計画

対 象	名 称	概 要
学生支援 / 教育	アントプレナー（起業化）講座	・ 起業家（卒業生）を講師とした現役学生への起業化講座
	現役学生への給付・奨学金制度	・ 経済困窮学生への支援 / 借与（2021年度制定済）
	研究開発支援	・ 若手研究者（博士課程研究員）への研究支援 ・ 学科研究室支援
	産学連携支援	・ 卒業生在籍企業と大学研究室との委託研究開発連携支援
教育 / 教養	卒業生のためのキャリア支援	・ 働く世代を対象としたキャリア形成支援 ・ 卒業生のための教養講「趣味」「教養」を醸成する支援講座
	交流クラブの発足	・ 自由が丘クラブを拠点とした世代間交流の場の創設 ・ 現役 / 卒業生の専門分野別交流会・セミナーの開催
10周年記念イベント 交流拡大 / 広報	10周年記念校友会総会 / 記念祝祭	・ 記念講演会（2023年5月20日） ・ 記念ディナーコンサート（2023年9月9日）
	校友会10年史	
	校友会会報「都市」10号記念号	
	全国縦断支部紹介 & ご当地講演会	・ 地方支部およびご当地アピール紹介動画（校友会HP掲載） ・ 地域ブロック、支部による地域講演会、イベント
	支部相互の交流	・ 地域ブロック内支部間交流 懇親ゴルフ大会
交流拡大 / 新支部	東京支部発足	・ 総会懇親会開催（2023年2月12日 私学会館アルカディア市ヶ谷）
	米国支部発足	・ 総会懇親会開催（2022年11月26日 ワシントンDC） ・ 学生米国インターンシップ発表会同時開催
	校友会海外 情報拠点発足 （英国、米国、カナダ、東南アジア）	・ 働く社会人を対象に国外活動で情報支援 ・ 海外インターンシップ支援
情報管理	校友会 情報管理	・ 個人情報保護 規程制定（2022年制定済） ・ サーバー管理

※青色は実施済

## 実施予定の主な記念事業

記念事業の開催案内は、校友会 HP 並びに、校友オンラインなど SNS にて広報します。多くの方の参加を期待します。

★10周年記念総会・記念講演会（2023年5月20日 大学世田谷キャンパス内）

テーマ「星のかけらを採りにゆく：はやぶさ2の技術とマネジメント」

講師：津田雄一氏（JAXA・ISAS 宇宙飛翔工学研究系教授・小惑星探査機はやぶさ2 プロジェクトマネージャー）

★10周年記念森山良子ディナーショー（2023年9月9日 セルリアンタワー東急ホテル）

フランス料理&森山良子さんライブ

## 校友会 2023年 10周年記念事業 ポスターについて

丹羽 譲治（1973建築）



写真は、10年程前に南フランスのエクスアンプロバンスを訪れた時、若者と初老の方が噴水をバックにベンチに座っていたのを捉えたものです。

メインテーマ「つなぐ つながる」を表現するのに選びました。

校友会活動の活性化を図り継続する為には若い人の力が必要です。サブテーマ「世代をつなぐ」を手前の2人で表しました。サブテーマ「地域とつながる」は、コロナ禍で地域との連携が薄れてしまったことを改善しようとの思いを勢いある噴水に託しました。

メインテーマをもとに新規事業が立案され、実施段階にあります。中には記念事業にとどまらずに継続する事業も出てきました。

# 横浜キャンパスの生い立ち、そして未来

緑豊かな港北ニュータウンに、21世紀を目前にして誕生した横浜キャンパス。「エコ・キャンパス」の先駆けとなり、2022年度で25周年を迎えました。今回は開設時より教鞭をとられている先生方にお集まりいただき、思い出を振り返りながら、横浜キャンパスらしさを再確認し、次の一步への思いを語っていただきました。



**吉田 国子 教授** (よしだくにこ)  
共通教育部 外国語共通教育センター  
大学院環境情報学研究科 環境情報学専攻



**横井 利彰 教授** (よこいとしあき)  
(1981電気)  
メディア情報学部 情報システム学科  
大学院環境情報学研究科 環境情報学専攻



**中村 雅子 教授** (なかむらまさこ)  
メディア情報学部 社会メディア学科  
大学院環境情報学研究科 環境情報学専攻

〈司会〉三川 健太 准教授 (みかわけんた) メディア情報学部 情報システム学科 (2005年環境情報)

## エコ・キャンパスとして 新しいことを試せる場に

**三川** 横井先生、吉田先生、中村先生、今日はよろしくお願いたします。横浜キャンパスというと、まず環境に配慮したキャンパスという特徴があります。私は5期生ですが、当時すでに横浜キャンパスはISO14001\*を取得していました。これは日本の大学で初の取得になったのですね？

**吉田** はい。まだISO14001ができて間もない頃で、横浜キャンパスも環境を標榜するのであれば、ぜひ取得しようという機運が高まりました。当時の学部長の小沼先生もそうしたチャレンジには、「いいね、やりましょう」とおっしゃる方でしたから開設の翌年に取得しました。

**中村** 当初から教員全員が環境委員会の4つの部会のどこかに入って構成員として関わっていく形を取りました。

**横井** 学生が全員構成員というのも重要な決断です。ISOの監査の際にキャンパスにいた一般学生が、きちんと回答して感心されたと聞いています。ISO学生委員会もつくられ、他大学に対しても環境活動においてリーダーシップを発揮してきています。

**三川** 私の先輩にもISO14001について卒業研究を行う学生が複数いましたから関心の高さがうかがわれます。それと私が入学する前ですが、横浜キャンパスで環境をテーマにした国際シ

ンポジウムが開かれていますね？

**中村** 開設した年に実施した「持続可能なアジア国際会議」ですね。今考えると、よく初年度に3日間にもわたる大がかりな国際イベントができたと思います。

**吉田** COP3 (1997年12月、京都議定書が採択された国際会議)の開催直後に合わせて、海外のゲストを招いたのでCOP3の時間が押してハラハラした記憶があります。

**中村** 錚々たるゲストの前で学生も堂々と発表していました。たしかスリランカからの留学生は民族衣装を着ていましたね。

**吉田** それぞれの母国の環境課題についての発表でした。私もプレゼンテーションの仕方を指導したのでよく覚えています。

※ ISO14001: 国際標準化機構 (ISO) が「組織活動が環境に及ぼす影響を最小限に食い止めること」を目的に制定した環境に関する国際的な標準規格群。1996年から発行が開始された。

## ダイバーシティな 学内に活気が満ちる

**三川** お話を聞いていると、開設時は教員も学生も新しく何かを創っていこうという意気込みに溢れています。

**吉田** 「横浜祭 (大学祭)」も初年度から始まりました。1学年しかいないのに非常に盛り上がり、職員の方の焼肉屋台と留学生会の水ギョーザが大人気でした。

**中村** 政府の「留学生10万人計画」により、キャンパス設置の条件の一つとして1学年30人の留学生を受け入れることをめざして、4年間で120人ですから特にアジアを中心に国際色豊かでした。

**横井** 教員構成も当時から今で言うダイバーシティーの考え方があったように思います。英語ネイティブの先生も多く、女性教員の比率も世田谷キャンパスに比べて高かったですね（初年度教員31名中、男性24名、女性7名）。学部長の小沼先生の方針で、教員陣は、本学、他大学、そして企業・官庁からそれぞれ3分の1の比率でなるべくバランスよく構成されていました（初年度構成員では、本学11名、他大学14名、企業・官公庁等6名）。

**中村** 今はどの大学にも実務家教員の方がいらっしゃいますが、当時このように意識的に集めるのは新しかったのではないのでしょうか。

**横井** 私は世田谷キャンパスに10年間在籍した後に移籍しましたが、横浜キャンパスの教授会では、さまざまな分野の専門家が揃っていましたので、根本を押さえかつ最新の社会常識の中にいることのできる刺激のある場でしたね。

## 垣根を超えて交流し 新しいことを試せる場に

**三川** その後、開設時の環境情報学部環境情報学科の1学部1学科体制が、2002年度に2学科に増設され、2013年度には2学部4学科体制に改組されました。それによってどんな変化がありましたか？

**横井** もともと環境情報学部は分野融合の学びと、分野横断的アプローチによる課題解決を掲げ、英語表記も Environmental and Information Studies と記していた通り、環境と情報を同じ重みでかつ密接に連携することを大事にしていました。ですから1学科2学科体制になっても、学生は環境と情報のどちらの最先端も学べるカリキュラムになっていました。

**中村** 教授会も学部全体で集まっているいろいろな意思決定をしましょうと意識してやっていたですね。

**横井** 最初の頃は「火曜会」という集まりもあって、教員同士が自分の研究領域での話題を紹介して、積極的に異分野間交流を図っていました。分野の違う話が非常に新鮮で勉強になりました。学生も聴講していました。

**中村** 学部長の小沼先生の提案で、教員がほかの先生の授業に自由に出ていいですよというルールもありました。今はFD（Faculty Development/大学の授業改善の取り組み）のための授業参観はありますが、当時は学生と同じ立場で手を挙げて質問する先生もいらっしゃいました（笑）。今は以前より忙しくなってそういうおらかさが足りなくなっているかもしれませんね。

**吉田** そうですね。私は英語科目なので両方の学部で教えていますが、学生も他学部の先生のことはほとんど知らないようですね。

**三川** 学生数も教員数も増えて変化はあるのですね。2023年4月には、デザイン・データ科学部が開設されます。最後に今後の

## ■横浜キャンパス年表

1997年4月	・横浜キャンパス開設 環境情報学部環境情報学科開設
1998年10月	・環境情報学部がISO14001認証を取得
2001年4月	・大学院環境情報学研究科修士課程環境情報学専攻開設
2002年4月	・環境情報学部情報メディア学科を増設
2005年4月	・大学院環境情報学研究科博士後期課程開設
2009年4月	・武蔵工業大学と東横学園女子短期大学が統合し、 東京都市大学に校名変更
2013年4月	・環境学部 環境創生学科、環境マネジメント学科を開設 ・メディア情報学部 社会メディア学科、情報システム学 科を開設 ・大学院環境情報学研究科に修士課程都市生活学専攻を 増設
2019年4月	・環境マネジメント学科を環境経営システム学科と改称
2023年4月	・デザイン・データ科学部デザイン・データ科学科開設 予定

横浜キャンパスに対する先生方の希望や期待をお聞かせください。

**横井** ある領域で成功した組織は、成功体験の基となった方針に適合した結果、硬直化を招くと言われています。研究にしても学びにしても、自然界にも存在する「1/fゆらぎ」のように、いい意味で揺らぎを持てる余裕を持つことで、外部環境の変化に対応できる組織であってほしいと思います。私はそのために、学内の教育における情報システムの提案・実験・実証・構築に取り組んでいます。できたゆとりを学生との交流や研究活動の活性化にあてられるといいと願っています。

**吉田** 学生との交流といえば、私は1期生の学生たちと今もつながりがあるのですが、学生たちが卒業してもつながっていたい大学であってほしいです。漠然とした言い方になりますが、そのために振り返ってみて自分にとってよかったなと思えるような出会いや体験をたくさんしてほしいなと思っています。

**中村** いろいろ試せる場所であってほしいですね。横浜キャンパスは、世田谷キャンパスとは少し離れた場所で、やんちゃな末っ子という感じでいろいろやってきた伝統があります。これからは学生がのびのびと自分がやりたいと思ったことをやれる場所であってほしいです。

**吉田** 自分たちで「村の分校」と呼んでいましたからね（笑）。ここからできることがあると思うのです。今回のデザイン・データ科学部は、学部の新設というだけでなく、横浜キャンパスとしてまた新しいスタートが切れるとよいですね。コロナ禍で制約もありますが、人的交流を図り、学生も教員も垣根を超えていろいろなことが学べるとよいと思います。

**三川** 垣根を超えるのが横浜キャンパスのよさということですね。先生方、本日はありがとうございました。

（この座談会は2022年11月15日に実施されました）





松尾 貴文氏

経歴：2013年3月：東京都市大学 工学部 生体医工学科 卒業  
2015年3月：東京都市大学 大学院 工学研究科 生体医工学専攻 修了  
2015年4月：コニカミノルタ株式会社 入社  
2020年10月：テルモ株式会社 入社

滋賀県彦根市生まれで、小学校まで地元で友達と琵琶湖で泳いだり、近所の川で鮎を捕まえたりして遊んでいました。中高生時代は、部活漬けの日々でした。とある日は午前100mを100本泳いで、午後はボールを使って暗くなるまで練習、合宿の晩飯は白米3合食べるような古典的な体育会系でしたが、結果的に肉体的・精神的には鍛えられました。辛いなりに続けられたのは、どこかで無意識のうちに楽しさや達成感を感じていたんだと思います。

## ◎大学時代の思い出

今となっては教養科目も大事だと思いますが、当時はもっぱら専門科目に興味を持っていました。中でも解剖学や生理学よりも機械や制御の方が興味を感じ、手術ロボットをテーマとする研究室へ進みました。配属後はのめり込むように、シミュレータを組んだり、試作機を設計したりしていました。指導教官の和多田教授のご指導もあり、卒業まで多くの学会にて報告する機会に恵まれ、濃密な大学生活だったように思います。

## ◎現在の仕事内容（会社概要等）

卒業後はインターンシップで社風がわかっていたコニカミノルタ株式会社へ入社しました。その後、希望通りの医療機器開発業務にあたり、開発者・企業人としてのイロハを学びました。一方で配属部門は全社から堅実な利益を出すことを期待され、コロナ禍も相まって経営資源を絞って利益を最大化する戦略にありました。短期的ではあれ経営資源の少ない環境は、若い自分には不利益と判断し、飛び出しました。その後、テルモ株式会社で開発に従事し、場数は増えたのでひとまず目的は達成できているように思います。

## ◎仕事で心がけていること

あるべき姿を描き、現状とのギャップを埋める行動をするよう心懸けています。以前は性能の良いモノを作れば売れる時代だったのに対し、今はコト売りの時代だと良く耳にします。その中で開発者への期待も変化していると感じます。そこで、私は目の前の製品を開発するだけでなく、事業として大きく捉えるように意識しています。その為に、製品を取り巻く背景を理解し、自分なりの課題を設定し、製品に落とし込むことで自分の仕事とするように意識しています。

## ◎社会の求める大学像、学生像とは？

何事も誰かに言われてやるのではなく、自分なりの仮説や未来像を描いて行動することが重要だと思います。その為にまずは内から湧く“問い”が必要です。問いは好奇心や経験などから生まれる感性だと思います。大学は特定の体験を学生に提供し、気づきを与えられると感性を醸成できるかも知れません。学生は自ら貪欲に体験に遭遇し、自分らしさとして行動に取り込んでいく事が大事に思います。そういった大学と学生を社会が求めているのではないのでしょうか。

## ◎今後（未来）の大学に求める役割とは？

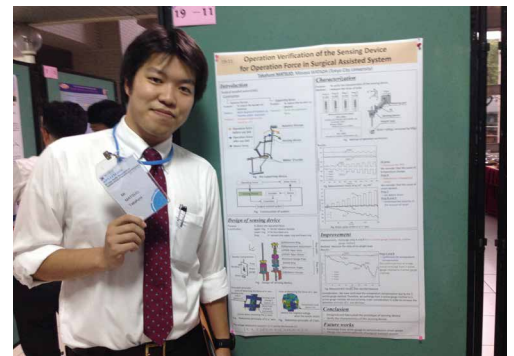
個人や組織は、経験に基づいた先入観で無意識に答えを決めつけている場合があります。これは転職をした結果、良い悪い両側面ありますが、想像以上に固定観念としての企業文化があるということを感じました。現状を客観的に分析したり、背景は何？と一呼吸置いたり、こうあるべきと思う感性、また他を受け入れる姿勢を培う場が大学であると良いなと思います。そんな場で多様な感性を持った人を育む場所が魅力的な未来大学なのでは？

## 卒業生（在学生）へのメッセージ

大学を出れば、多くの人が遅かれ早かれ就職するかと思います。これからは年功序列の終身雇用から、成果主義のジョブ型雇用へと変わります。人財が流動化する事で思い描くキャリアパスを能動的に取りに行くチャンスが広がりましたが、スキルのない人は取り残される可能性もあります。常に自分の価値を見出しながら、次はどうあるべきかを自問自答する事が大事です。大学生活はその判断や価値観を醸成する原体験やキッカケ作りに時間を費やせる貴重な時間です。是非たくさんの経験に出会ってみてください。



国際会議参加  
<右から1人目>



国際会議にて発表





山本 未紗稀氏

東京都大田区出身

2017年東京都市大学自然科学科卒業、研究室は吉野邦夫先生の応用数学研究室。東京都の教員採用試験を受け、大学卒業と同時に教員に。現在は世田谷区の中学校で数学を教えているほか、生徒会担当や演劇部顧問を務めている。在学時は、自然科学科・学生会に所属し、会長も務めた。

- 本日はよろしくお願ひします。コロナ禍ということでオンラインにてインタビューさせていただきます。学生時代の思い出として、印象に残っている授業やイベントなどについてお話を聞かせてください。

教職の授業が印象深いです。4年間かけて、教科指導や生活指導などにおいて、生徒を一人前にするためにどう指導していくのかを学びました。「生徒を主人公にする」「3年間でたくさんの成長を見守る」という先生方の姿勢からは学ぶことが多かったです。より内容を深めたい授業は、一度単位を取ってからもう一度参加させていただくこともありました。特に印象に残っているのは「合唱コンクールの自由曲が決まらず、投票でも同数でわれてしまった時にどのように決着をつけるか」という場面指導の授業です。グループになって指導の方針をたてる中で、互いの歌の良いところを挙げる指導を考え、みんなの前で発表しました。この授業を通して、クラスのことを子どもの力で決めることの大切さを学び、それは今現場で活かされています。

- 研究室での思い出といえばどんなことがありますか？

研究室では、吉野先生に教えていただき、今では考えられないような難しい数学について学びました。当時、応用数学研究室には部屋が用意されていなかったため、卒業研究は図書館やファミリーレストランで進めていました。吉野先生が「数学は紙とペンさえあればどこでも考えられるから良いのだ」とおっしゃっていたのが記憶に残っています。また、所属している学生が3人だけだったので、少人数で手厚く教えていただきました。3人とも数学が好きだったので、難しくても1人で解決できない課題に直面した時には、休み時間を使って空き教室で一緒に考えました。黒板に数式が残るのがなんだかよかったよくて、あの時間はとても楽しかったです。

- 学校の先生になろうと思ったきっかけを聞かせてください。

数学が好きで、子どもたちに教えたいと思ったのがきっかけです。恥ずかしい話、初めは「私が数学を教えたいから先生になるんだ!!」と自分勝手なことを思っていました。しかし教職課程で、授業以外にも子どもが成長する機会がたくさんあることを知りました。学んでいくうちにだんだん「生徒のために働きたい」「生徒を一人前にしたい」という気持ちが強くなりました。授業や学級で生徒に寄り添い、成長に関わっていきたいと思ったので、試験を受けて合格できた時にはすごく嬉しかったです。

- 学校の先生は日々とても忙しいと思いますが、特に印象に残っている業務の経験があれば教えてください。

働き始めてから3年目の時に、合唱コンクールの主担当を任せられました。初めて大きな行事を動かすことになったので、分からないことが多く、先輩方に助けをもらいながら進めましたが、スケジュール管理や特別支援学級への配慮など、なかなか上手くいきませんでした。それでも子どもたちにとって行事はとても印象に残るものなので、いい形で終わってほしいという思いがあり、がむしゃらに働いた記憶があります。

当時は初めて担任として1年生を受け持っており、クラスでの合唱指導もうまくいかず、担任としても主担当としても、行事が成功するのか、本番当日までハラハラしていました。当日は周りの先生方の支えもあって、なんとか乗り切ることができました。最後に最高学年である3年生の素晴らしい合唱を聴くことができ、やってよかったと感じました。企画、運営はとても辛かったけど、この仕事をしている中で自分が大きく成長した期間だったと思っています。



運動会でクラスカラーの服を着た写真

- 本誌は3月の学位授与式に合わせて卒業される皆さんにも配布されます。今日卒業を迎える皆さんに一言メッセージをいただけますか？

卒業生のみなさん、卒業おめでとうございます。この4年間で、どれだけの成長をしましたか？私が子どもの頃は、大学生ってもっと大人なイメージがありました。だけどそんなことはなくて、大学生の間に知ったことはとても多く、新鮮な毎日でした。みなさんも大学で学ぶことは多かったのではないのでしょうか。私も、きっとみなさんも東京都市大学で過ごした時間にたくさん成長したはずですよ。

今日卒業の日を迎え、4月からは就職をする人、大学院に進む人など、色々な人がいると思います。これからの生活で、楽しいことも、時には辛いこともあるでしょうが、それでも、その一つひとつの経験がみなさんの大きな成長へ繋がり、大切な思い出になればと願っています。一度きりの人生ですから、目一杯楽しみましょう。応援しています！



修学旅行での写真



進級時の写真

## 2022年度 支部総会・懇親会 開催一覧 (2022年11月27日開催分まで 14支部)

支部	開催日	会場
広島	2022年6月11日(土)	広島センチュリーホテル21
秋田	2022年6月18日(土)	秋田キャッスルホテル
千葉	2022年7月2日(土)	東天紅
鳥取	2022年7月2日(土)	米子ワシントンホテル
栃木	2022年7月16日(土)	ホテルマイステイズ宇都宮
米国	2022年9月3日(土)	服部国際特許事務所 (ワシントンDC)
京滋	2022年9月4日(日)	琵琶湖ホテル

支部	開催日	会場
山形	2022年10月1日(土)	ホテルメトロポリタン山形
宮城	2022年10月21日(金)	ホテル仙台ガーデンパレス
群馬	2022年10月22日(土)	ホテルラシーネ新前橋
島根	2022年11月12日(土)	総会:松江テルサ 懇親会:松江エクセルホテル 東急
兵庫	2022年11月20日(日)	三宮東急 REI ホテル
大分	2022年11月26日(土)	トキハ会館
熊本	2022年11月27日(日)	KKR ホテル熊本

### ◆秋田支部

事務局 小松 俊光 (1985建築)

2022年度の秋田支部総会は、3年ぶりに6月18日(土)に「秋田キャッスルホテル」において、松村会長、松浦支部委員長を来賓にお迎えし、秋田支部会員15名の参加にて開催されました。

総会においては、2018年度～2021年度事業及び決算報告、2022年度事業の開催とその予算についての承認、併せて役員改選を行い、新支部長には小原正明(1983建築)氏が選出されました。長年、当会を引っ張っていただいた川村前支部長(1970建築)と三ヶ田前副支部長(1968生産機械)には感謝を申し上げます。

懇親会では、コロナ感染対策をし、久しぶりの再会を楽しむことができました。最後は「武蔵工業大学」「東横学園女子短期大学」「東京都市大学」の校歌を歌いました。

家族参加型の見学会を7月16日(土)に「市立秋田総合病院」で行われ、会員の家族を含めて21名の参加となりました。建設工事を請け負っていた清水JV代表者の清水康次郎氏(1988建築)のお取りはからいにより見学をさせていただきました。



家族参加型見学会 集合写真



総会



懇親会

### ◆宮城支部

支部長 山形 洋(1976土木)

2022年10月21日(金)宮城支部総会・懇親会を仙台ガーデンパレスで開催しました。3年振りの開催でしたが22名が参加されて、久しぶりに旧交をあたためることができました。山形市から通勤されている方に帰宅途中寄っていただいたりして、新卒の方を含めて初参加の会員は5名になりました。



2022年度宮城支部総会 会長の挨拶  
総会会場は円卓4～5人掛けで  
アクリル板を設置しています。

#### 東京都市大学校友会宮城支部総会



2022年度宮城支部総会 集合写真  
総会と懇親会の合間に撮りました。  
撮影の瞬間にマスクを外しています。

総会に先立ち、松村会長にオンラインで挨拶をいただきました。校友会本部からは松浦支部委員長、

衣斐副委員長が出席されて、大学の様子などをスクリーンで解説していただきました。コロナ禍が続きますが、慎重に運営し、和やかに談笑できる交流の機会を、これからも続けていこうと思っています。

### ◆山形支部

事務局 大泉 明子(1996建築)

2022年(令和4年)10月1日に3年振りとなる山形支部総会をメトロポリタン山形で開催しました。17名の支部会員と、校友会から松村会長、松浦支部委員長、衣斐副支部委員長、地域ブロック代表である宮城の山形支部長の4名が来賓として御

参席いただきました。

総会は2021年（令和3年）の事業・決算報告に続き役員改選を行い、新支部長には1975年土木卒の亀井浩之氏を選出しました。校友会の皆さんからは、学校の動きや校舎改築の情報のほか、最寄り駅からキャンパスまでの動画が上映され、懐かしく拝見させていただきました。

久しぶりの対面での会食で会話が花が咲き、あっという間に時間が過ぎてしまいました。気兼ねなく安心して総会を開催できる日を待ち望むばかりです。



亀井支部長



山形支部総会・懇親会集合写真

### ◆栃木支部

支部長 齋藤 治秀（1982土木）

栃木支部では、新型コロナウイルス感染防止対策を講じて、2022年7月16日（土）に第45回栃木支部総会をJR宇都宮駅前の「ホテルマイステイズ宇都宮」に於いて開催しました。昨年に引き続きコロナ禍での開催となりましたので、参加会員は13名、校友会本部から、松村会長、松浦支部委員長を来賓としてお招きし、11時から12時の1時間で、懇親会は13時から昼食会として1時間30分程度で実施しました。

栃木支部の行事としては、親睦ゴルフを2022年6月18日（土）に宇都宮ガーデンゴルフクラブに於いて、2022年10月12日（水）



親睦ゴルフ（サンヒルズ GC）



親睦ゴルフ（宇都宮ガーデン GC）



第45回総会・懇親会集合写真

にサンヒルズゴルフクラブに於いて同じ参加者6名で2回実施しました。

### ◆群馬支部

支部長 鈴木 高志（1974土木）

2022年10月22日（土）新前橋駅前のホテルラシーネで校友会群馬支部の第2回総会が2年半ぶりに開催されました。当日は三密を避け全員マスク着用。距離を保ち、マイク使用の際は全員がマイマイクカバーを使用し感染防止対策をして臨みました。



群馬支部の初ゴルフコンペ開催

総会、懇親会の支部参加者は24名、本部より会長・副会長・支部委員長・支部委員の各氏にもご列席賜り総勢28名で開催。今回特筆すべき事は1959年電気卒の大先輩の方や工大、東横学園卒のご夫婦に参加いただいた事と、新役員に若手2名が加わった事でした。

今回総会で承認された新役員をご紹介します。

支部長：鈴木高志（1974土木）/ 副支部長：清水勉（1976建築）、峰岸きみよ（1968国文）/ 会計：尼崎夢子（1971家政）/ 幹事長：星野雅生（つねお）（1975建築）/ 幹事：深澤隆（1977土木）、加藤雅哉（2003環境情報）、加治屋勉（1970機械）事務局 / 会計監査：水尾公子（1965家政）、福永玲子（1993英文）/ 顧問：田中俊治（1968通信）



群馬支部総会・懇親会集合写真



懇親会（各テーブルの様子）

### ◆千葉支部

幹事長 村田 慎吾（1976土木）

千葉支部総会・懇親会は例年通り7月第一土曜日に3年ぶりに開催されました。



千葉支部総会 集合写真

2022年で3回目となります。2021年、2020年とコロナ禍の為、中止となり、今年も開催が危ぶまれておりましたが、3月31日に急遽役員会を開催し、開催の運びとなりました。

久しぶりの総会・懇親会で、会員皆様が出席して頂けるか否か心配でしたが、写真の通り28名の出席を頂きました。また、校友会支部委員会より松浦委員長と田崎委員が出席され、松浦委員長のご提案で同日開催の鳥取支部の皆様とインターネット ZOOM による交信ができました。

3名の写真のご説明させていただきます。左より1957年機械卒の三浦様、1965年卒の猪狩様、1959年建築卒の長谷川様です。千葉支部会員の年長であり、毎年必ず総会に出席されており、元気を頂いております。



千葉支部総会

### ◆京滋支部

支部長 廣原 美照 (1976経営)

2022年9月4日 3年半ぶりの支部総会を開催しました。開催直前の滋賀県大津では2度に渡りコロナ感染者過去最高を更新し迷いに迷いながらの決行でした。総勢16名(本部来賓2名含)従来の近隣支部へのお声かけは控えた内輪だけの支部総会としましたが、「開催して良かった」と強く思いました。オンラインでの交流も可能とは言え、やはり各位と顔を突き合わせる親睦は格別だ!との実感があります。これにより意を強くし、引き続きウォーキング同好会+BBQ 親睦会(11月3日実施8名参加)、ゴルフ同好会(4月10日開催に引き続き11月12日実



ゴルフ第18回古都会 (2022.11.12)



総会テラス集合



堰堤前の橋で休憩 (2022.11.3 ウォーク & BBQ)



宴たけなわ

腹いっぱい後のコーヒータム (2022.11.3 ウォーク & BBQ)

施11名参加)とたて続けにそれぞれの企画を実行することができました。今後も積極的な支部活動をと次をもくろんでいるところです。

### ◆兵庫支部

幹事 平井 景三 (1971通信)

2022年11月20日(日)神戸三宮東急 REI ホテルにて、2022年度兵庫支部総会が3年ぶりに開催されました。本部より、松村慶一会長、川辺加代子副会長、松浦支部委員長、関西地域ブロック各支部より、廣原美照京滋支部長、徳倉康裕大阪奈良支



兵庫支部総会・懇親会 集合写真

部長、那須敏夫和歌山支部長のご臨席を賜り、総勢25名のご出席のもと盛大に挙行されました。引き続き厳重な感染対策のもと懇親会が開かれ、近畿各支部の活動状況のご報告、空くじ無しのビンゴゲームのアトラクションなどが楽しく催されました。

### ◆鳥取支部

支部長 藤谷 治男 (1968建築)

7回目となる2022年度の支部総会は7月2日(土)米子ワシントンホテルにて松村会長、衣斐副支部委員長、支部会員7名参加のもと、開催いたしました。千葉支部総会とオンラインで接続、初の試みだったので、多少準備不足の感もありましたが、



総会・懇親会の様子



鳥取支部総会・懇親会 集合写真

面白い試みでもありました。

10号の記念号でもありますので、鳥取支部総会について振り返りたいと思います。

設立総会は、2015年6月27日

(土) 皆生シーサイドホテルにて、当時の松下会長、小林副会長が来県、中国・四国地区から4名、支部会員8名の参加がありました。

その後も支部総会を2020年のコロナによる中止と2015年6月27日(土)に開催以外は、毎年7月第1土曜日に開催、2015年と2018年は皆生シーサイドホテル、2016年と2019年は三朝ロイヤルホテル、2017年は鳥取ワシントンホテルにて開催、2021年は初のリモートで開催をいたしました。

### ◆鳥根支部

支部長 谷口 博則 (1972土木)

2022年度(令和4年度)の総会を11月12日(土)、JR松江駅前の「松江テルサ」、懇親会を「松江エクセルホテル東急」において開催いたしました。2020年度(令和2年度)、2021年度(令和3年度)の総会をコロナウイルス拡大のために中止としておりましたので、実に3年ぶりの対面型総会となりました。ただし2021年度については、総会の議事案件をメールと郵送による承認の形でいき、支部立ち上げからご尽力いただいた今崎前支部長が勇退され、私谷口が新支部長を務めさせていただくこととなりました。今崎前支部長には、空手部での思い出をはじめ謳歌した大学生活の楽しさを折にふ



総会の様子



2022年度総会・懇親会集合写真

れてお話しいただきました、改めて感謝申し上げます。支部の参加者は7名、本部から松村会長、鳥取県から藤谷支部長にもご出席いただきました。懇親会はコロナ対策を考慮して、近くの松江エクセルホテル東急に場所を移し、変わりゆく新キャンパスの話題や、近くにあった中華店など、昔話を花を咲かせながら和やかな時間を過ごすことができました。

### ◆広島支部

事務局 神垣 裕規 (1985建築)

2022年11月12日(土)、『広島教育会館 ホテルチュリッヒ東方2001』で広島支部の会員12名の参加、校友会から来賓として、松浦支部委員長(1976土木)にお越しいただき、懇親会を開催しました。



開会挨拶 渡辺支部長

松浦様からの校友会と大学の近況報告をお聞きする中で、全国に44支部、海外3支部、海外とのインターンシップの拡大、レラティブ入試の実施、新しい学科として、デザイン・データ科学科新設等々、少子化の中、新たにチャレンジし、変化を続ける



懇親会 集合写真

母校にたくまさとパワーを感じました。

映像の中で、尾山台駅から商店街

を抜け、環八を渡り、大学に向かう道路の状況に出席者一同、『昔はあーじゃった、こうじゃった』と広島弁で、大いに盛り上がりました。

社会情勢は、コロナウイルス感染症、各地の紛争、円安等、予想が難しい面もありますが、来年も春の総会・秋の懇親会と会員相互の交流を深めていきたいと思っております。

最後に校友会事務局の皆様、色々な懇親会開催へのサポート、有難うございました。

### ◆大分支部

支部長 安部 實 (1965通信)



児島幹事長  
オリンピック聖火リレー報告



オリンピックトーチを  
かざす松村会長



相馬君

2022年11月26日(土)午後5時から総会、5時半~8時懇親会。

コロナ禍の下、大分支部員は10名出席返事のところコロナ感染拡大の影響で2人欠席になった。今回特筆することとして、相馬一希君



野原副支部長(1976年土木卒)  
の万歳三唱でお開き

(2021都市生活学科の)が大分に帰省するついでに出席すると返事があり準支部員として出席してもらった。これは地方出身者の地方支部所属の新しい形態になると思われる。



集合写真(大分支部8名、校友会本部3名)

### ◆熊本支部

支部長 園田 増雄 (1972機械)

第7回支部総会は、11月27日に熊本城近くのKKRホテル熊本にて、25名の参加がありました。

総会前に、全員で熊本城を背景に記念撮影後、坂田良一事務局長(1975機械)の司会で開会し、この総会で勇退される東求支部長(1971土木)の挨拶後、勲章を授与された笠愛一郎氏(1977電気)と福島正嗣氏(1974建築)に金一封を贈呈しました。



金一封贈呈

議案は、事業報告等スムーズに承



熊本城背景に集合写真



花束贈呈

懇親会



懇親会

認められました。懇親会では、来賓として本部から松村校友会会長ほか2名、横山九州沖縄地区代表が参加されて挨拶と大学の近況報告がありました。

加納義之副会長（1970機械）の乾杯後、懇親を深め、立山典子副支部長（1971国文）の締めの言葉で閉会となりました。

## ◆米国支部

支部長 服部 健一（1966機械）  
米国弁護士

### 米国支部設立と第1回総会に思う

東京都市大学校友会の長年の課題でした米国支部が2022年9月3日に正式に設立され、その総会が行われ、小職が初代米国支部長に任命されました。



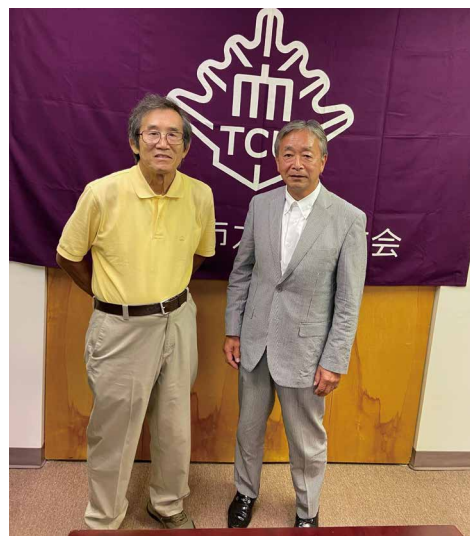
桃沢先生（海外インターンシップ担当）ご挨拶

米国は世界の政治・経済の中心であり、卒業生も多数在住していることを考えますと米国支部の設立は非常に重要と考えられます。

またこの総会には日本から松村・桃沢両先生もお越し頂き、同

時に東京都市大学の4名の学生の米国インターンシップの成果発表会も行われました。その理由は我が米国法律事務所では2013年から毎年4名の米国インターンシップ生を受け入れているため（但し、2020年と2021年はコロナ問題のため中断）、その成果発表もあったため総会は非常に盛り上がったと言えます。

総会は全米そして、日本や世界からの参加を可能にするためオンラインを駆使して行われました。米国は単に支部といってもあまりに広大で、全米各地で働く卒業生が一同にバージニア州に存在する我が法律事務所に集合することは非常に困難ですのでオンライン総会は非常に有効です。そのため、米国のみならず、日本そして欧州に在住する卒業生も多数参加可能となったわけです。

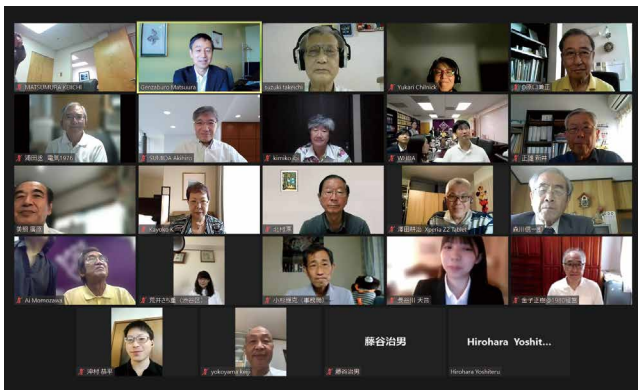


服部、松村会長の  
米国インターンシップ講評

小職は1959年に多摩川沿いにポツリとある武蔵工大付属高校に入学しましたが、今は多数の近代的校舎が存在する日本でも屈指の学校になっていることは誇りに思うばかりです。

世界における米国市場の重要性を考えますと、米国支部は今後の東京都市大学の発展のためにも大変重要と考えられます。ただ米国支部はあまりに広大で、軽々に集合することは困難ですので今後もオンラインを活用して調和と統制の取れた米国支部へと発展して行かなければならないでしょう。

小職も微力ながらそのために一層の努力を尽くして行く所存です。



集合写真



松浦支部委員長挨拶（日本から）

## ◆五洋柏会支部

江守 辰哉 (2014都市)

五洋柏支部の会員数は2022年10月現在で52名であり、国内各地はもとより海外事業所にも在籍しながら活躍しております。近年はコロナ禍の影響もあり、一堂に会しての支部総会の開催が難しい状況ではありますが、2021年8月には“担い手育成活動”として、東京都市大学の学生を対象とした現場見学会を開催いたしました。

現場見学会では9名の学生に参加（コロナ禍のため、5人以下/日の少人数での開催）していただき、都市大OBが現場所長として活躍する東京国際空港に隣接する多摩川護岸改良工事をはじめ、周辺海域の浅場造成工事の見学やバックホウによる掘削作業の様子を間近で体感してもらいました。また、見学後には現場の若手職員との意見交換会を開催し、自由闊達な質問が飛び交うことで若手職員・学生双方に良い刺激になったものと考えております。

今回の現場見学会は、現場の要請により支部会員が中心となって開催が実現したこともあり、

改めて五洋柏支部の団結力を感じる良い機会となりました。今後も五洋柏支部の支部活動を通して、会員間の連携を強固なものにするとともに、多くの学生に建設業や五洋建設の魅力をしっかりと伝えていきたいと思っております。



## ◆飛島柏会支部

小林 剛 (2016都市)

私は2016年に都市工学科を卒業後、飛島建設株式会社に入社しました。現在は土木本部グリーンインフラ部で、自社事業として取り組んでいる中小水力発電事業のプロジェクトに従事しています。今回は私の業務内容や仕事のやりがいについて紹介します。

### ○現在の業務内容

自社事業として取り組んでいる中小水力発電事業の現地調査から運営までの一連の業務に携わっています。現地調査では、発電事業を行うに値する候補地の机上調査、現地踏査および関係機関へのヒアリングをしています。また、建設中の発電所では、施工業者の指導および監督などを行っています。

### ○この仕事でやりがいを感じた瞬間

自分が調査して見つけた中小水力発電の候補地が事業の実現性が上がったときに、自分の成長とやりがいを感じました。また、役所などに事業内容を説明した際に、その説明が相手にうまく伝わったときに自分の成長を感じました。

### ○休日の過ごし方

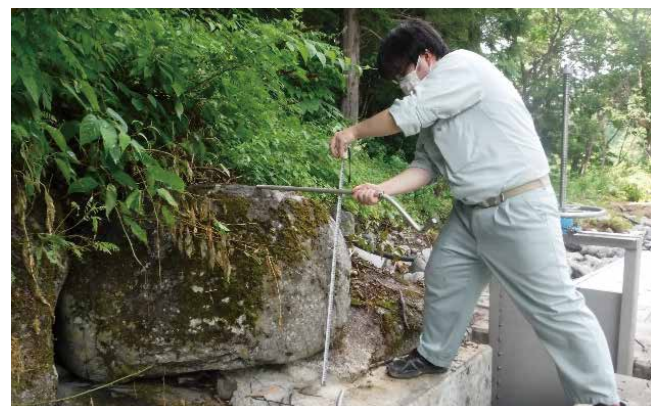
インドアなのでゲームや漫画などの趣味を楽しんでいます。最近では、運動不足解消のため、週一でジョギングを行っています。

### ○今後の目標

技術士の取得を目標に日々の業務に取り組んでいます。また、現在の業務に関連する eco 検定や第三種電気主任技術者の資格取得を目指しています。



米沢大平小水力発電所



発電所建設中の確認状況

## 横浜キャンパス

横浜祭初日である2022年6月11日に楷の木会主催の2022年ホームカミングデーをオンラインにて開催しました。当日は卒業生、教職員をはじめとして60名余の方にご参加いただきました。

第一部の横浜キャンパストークライブ“YC talks”では環境学部 環境創生学科 田中章教授による特別講義「社会人になった君たちに贈る補講」として、「好きなことをとことんやろう」というタイトルで、先生のこれまでのご経歴、ご自身の環境を変える時にどのようなことをお考えのもとでご決断をされたのか、聴講している学生、卒業生へ向けて、やりたいことを考え、やろうと決めたらとことんやるのが大切であるというメッセージを伝えていただきました。



卒業生による講演「卒業生達のいま、そしてこれから」では元田慎一郎さん（2001環境情報）による「極小企業のわらしべ長者的生存戦略」、金丸太一さん（2016環境情報）による「仕事をもとめて1300キロ 3回転職した人生」、三

会報編集委員会委員 三川 健太（2005環境情報）

川（2005環境情報）による「退学寸前 社会人経由 大学教員」の3名にご講演をいただきました。卒業後に起業、複数地域での環境保全活動、就職後に大学教員を目指すなど、講演者のこれまでのご経験やその時に置かれていた状況や感情など、それぞれ異なる立場から非常に示唆に富んだお話をご講演いただきました。

第二部では、オンラインツールのoViceを利用することで、現実に近い形で懇親会を行いました。ここでも多くの卒業生、教職員の皆様にお集まりいただき、旧友やお世話になった方々との思い出話に花が咲いているようでした。

今年度も情勢を鑑み、ホームカミングデーはオンラインでの開催となりましたが、対面で卒業生の方々とお会いできる日を心待ちにしております。



オンラインツールを用いた懇親会の様子

## 世田谷キャンパス

2022年11月5日（土）13:00より「東京都市大学 ホームカミングデー」が開催されました。本イベントは、世田谷キャンパスにおける学園祭期間中に開催され、2019年は台風19号による浸水被害のため等々力キャンパスで実施、2020年、2021年はコロナ禍によりオンラインによる実施であり、世田谷キャンパスでは、実に3年ぶりの対面による開催となりました。今回は対面だけでなく、オンラインによる参加もできるようになりました。

在学生代表である原子力安全工学科3年、学生団体連合会会長の萩原駿行さんの歓迎挨拶で始まり、三木千壽学長、松村慶一校友会長の挨拶がありました。そして、司会の電気電子情報工学科 准教授の鈴木憲史先生より最近の大学の取り組みの紹介がありました。その後、環境学部 環境経営システム学科 佐藤真久先生より「分断を乗り越え、分野・領域・世代をつなげる ~SDGsの本質に対応し、「国連・



ESDの10年」の経験を活かす」というタイトルで、これまでのSDGsの経緯や本質、またこれからのSDGs

のあり方についての講演がありました。

当日は86名が会場に駆けつけ、オンラインでは約57名の参加がありました。これからの新しいホームカミングデーのあり方を示した会となりました。最後に、夢キャンパス・コミュニケータ学生より本年9月に発売となった「都市大カレー」の開発経緯および商品の紹介がありました。会場にお越し頂いた皆様は、終了後、綺麗になった世田谷キャンパスのあちこちを見学され、学園祭を満喫されておりました。参加して下さいました卒業生の皆様に厚く御礼申し上げます。こうした状況下でしたので懇親会の実施は叶いませんでしたが、次年度も対面で、もしくは画面越しに皆様とお会いできるのを楽しみにしております。

総務委員長 白木 尚人（1991機械）





## 校友会会報「都市」表紙のこだわり

勝又 英明 (1980建築)

2022年は校友会発足10年になりますので本号もって10号となります。9号までの表紙のこだわりについて紹介したいと思います。

第1号、2号は「校友会発足記念」シリーズです。校友会会報「都市」第1号は2014年5月に発行されています。まだ表紙のレイアウトが決まっておらず定期発行日も決まっておらずでした。校友会発足の第1号は校友会発足の門出(記念)として、東京都市大学の4キャンパス(世田谷キャンパス、横浜キャンパス、等々力キャンパス、王禅寺キャンパス)の2014年4月1日のキャンパスの桜を(1日で回って)撮影したものです。第2号は武蔵工業会と美砂会が合併しての最初の世田谷キャンパスでのホームカミング(2014年11月)での集合写真です。武蔵工業会と美砂会が校友会として融合したこと(融合すること)を記念(祈念)して撮影したものです。この号の裏表紙は横浜キャンパス、等々力キャンパスでのホームカミングでの集合写真です。

第3号、4号、6号は「窓」シリーズです。同窓会誌ということで3キャンパスの「窓」のコレクションをお届けしました。

第5号、7号、8号、9号は「世田谷キャンパス再開発」シリーズです。世田谷キャンパスの再開発が進行しており世田谷キャンパスのキャンパス風景が年々変わりつつありその様子を撮影したものです。撮影の際に工夫していることは、一般的な広報の写真で扱われるような誰にでも撮れそうな写真ではなく、普通では撮れないアングルで撮影しようと試みていることです。例えば5号と7号は研究室の中にお邪魔して、そこの窓から撮っています。8号と9号は(大学にお願いをして)普段では撮れない場所からのものです。ですから皆さんが同じ写真を撮ろうとしてもなかなか撮れないアングルとなっています。その上で写真撮影に適した天気、太陽光の方向を考えながら撮影しています。もう一つ工夫していることは、大学のキャンパスは大体3月か4月に竣工、使用が開始されます。ですから2月ぐらいに撮影をするとまだ工事中の場合が多いです。表紙写真は記録としての意味もあると思うので竣工写真ではなく工事中の写真の方がその時代を後世に記録として残せるのではないかと考えて、あえて工事中の写真にしています。

写真の撮影日にはいくつかこだわりがあります。本誌の発行日が第2号から3月19日の卒業式になっています。表紙は季節感が重要だと思いますので発行日になるべく近い日に撮影したいと思います。表紙写真の入稿は発行日に間に合うギリギリまで待ってもらっています。だいたい2月の中旬から中旬辺り撮影となります。それでもなるべく寒々としてない写真を掲載できるように撮影する時間と場所を選んでいきますし、表紙写真の解説には記録写真の意味も含めて撮影日と撮影場所を入れてあります。

9年分の表紙写真が並ぶ機会というのはそうあることではないと思います。是非毎年一回の校友会会報「都市」の表紙写真を並べてご覧いただき大学キャンパスの動きを感じていただければと思います。

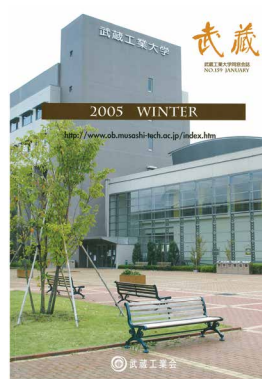
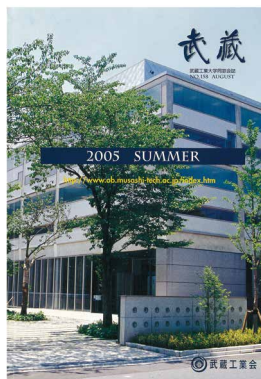
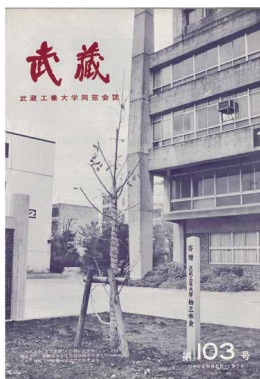
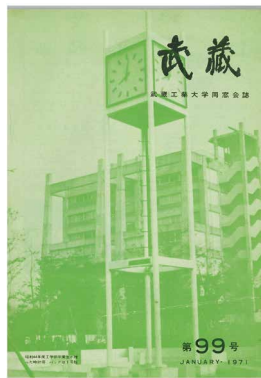
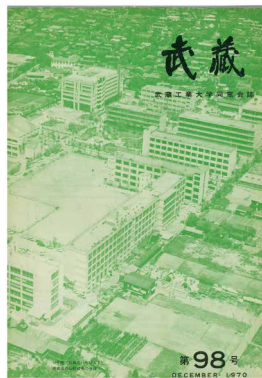
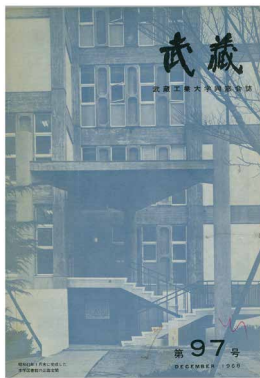
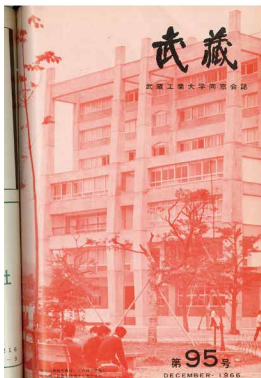
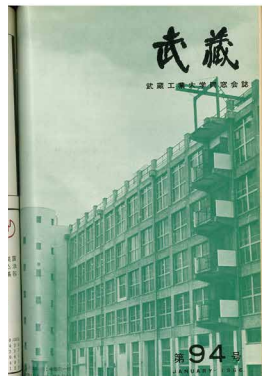
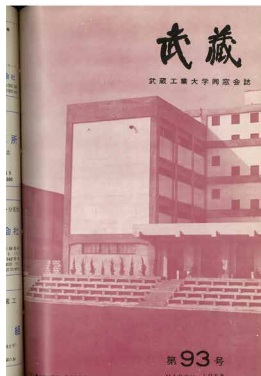
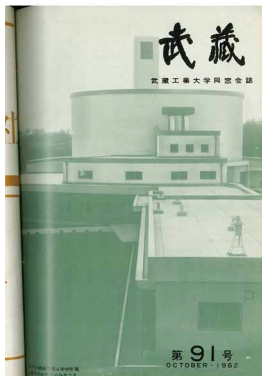
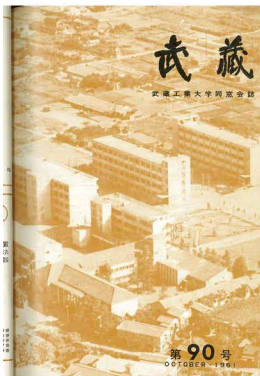


会報「都市」は今号で10号となるのを記念して、ルーツを辿ってみました。

## ～会報「武蔵」について～

「武蔵」第1号は、1934年（昭和9年）5月に発刊され、第73号 1945年（昭和20年）2月1日発行までは、學友會・同窓會（いずれも武蔵工業会前身名称）

1号



1929年 武蔵高等工科学学校 > 1942年 武蔵高等工業学校 > 1944年 武蔵工業専門学校 > 1945年 武蔵工業大学 > 2010年 東京都市大学

## 美砂会報題字の変遷

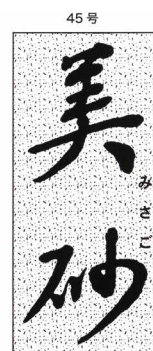
1958年（昭和33年）5月に東横学園女子短期大学同窓会は発足致しました。同窓会名は三木幸至教授のご提案により、創立日の語呂合わせから、「335」→「みさご」となりました。1965年（昭和40年）より会報「みさご会報」が発行されました。同窓会のあるべき姿をお示しくくださった第二代学長 英修道先生のご提案により1971年（昭和56年）「美砂」と改称致しました。

それから東横学園女子短期大学閉学までの50年あまり会報の題字は変遷を続けて参りました。誌面の全てを掲載することは叶いませんが、題字をご覧になり以前の会報を思い起こしていただければ幸いです。

1956年 東横学園女子短期大学 > 2010年 東京都市大学



が発行し、第74号 1946年（昭和21年）7月20日発行より、第174号 2014年（平成26年）2月4日発行まで、武蔵工業大学同窓会 武蔵工業会が同窓会誌「武蔵」を発行してまいりました。掲載の表紙は、校舎を撮影した写真となります。当時をなつかしく、母校に思いを馳せていただければ幸いです。



## 校友会総会 講演会等アーカイブ

年度	開催日	場所	テーマ・講師	聴講人数	ひとこと概要
2015	6月20日	渋谷エクセルホテル東急	テーマ：「都市大アクションプランの実現に向けて」 講師：三木千壽学長	155名	都市大創立90周年、100周年に向け、大学のビジョンを達成するための「アクションプラン2030」についてご説明いただきました。
2016	6月18日	世田谷キャンパス 21C/22C 教室	テーマ：「宇宙、人、夢をつなぐ」 講師：元宇宙飛行士 山崎直子氏 	238名	スペースシャトル「ディスカバリー号」に搭乗し国際宇宙ステーション組立てミッションに参加されたお話を中心に宇宙での体験をお聴きしました。当日は、講演会場が満席で、映像での聴講会場を別に設けました。
2017	6月17日	世田谷キャンパス 21C 教室	テーマ：「お風呂・温泉を使った健康づくり」 講師：人間科学部 早坂 信哉教授 	138名	TV等で多数の番組に「お風呂のスペシャリスト」として、ご出演されている早坂先生にお風呂・温泉の効用、健康を保つための正しい入浴の仕方等について詳しく教えていただきました。
2018	5月19日	世田谷キャンパス 21C 教室	テーマ：「北朝鮮に対する国際圧力とほほえみ外交の展望」 講師：メディア情報学部 李 洪千准教授 	148名	李先生は、韓国、北朝鮮、中国の情勢についてメディアに出られており、今回は、北朝鮮の動向についてお話いただきました。当時は、米国と北朝鮮のトップ会談が行われる等世界から注目されていた背景がありました。
2019	5月18日	世田谷キャンパス 21C 教室	卒業生による海外インターンシップ報告会	126名	桃沢海外インターンシップ®運営委員長から、現況説明があった後、卒業生3名の方から、海外インターンシップの体験が披露されました。
2021	5月15日	リモート	テーマ：「都市大創立100周年に向けてのビジョン」 講師：大上浩、関良明、野中謙一郎各副学長	116名	3副学長から、ご担当の立場でお話いただきました。 大上副学長<教育>、野中副学長<研究>、関副学長<キャンパス連携>
2022	5月21日	世田谷キャンパス 71A 教室 (ハイブリッド)	テーマ：「今、中世史のここが熱い！ —「真田丸の舞台裏—」 講師：共通教育部 准教授 丸島 和洋先生 	114名 対面：45名 リモート：69名	2016年NHK大河ドラマ「真田丸」の時代考証を担当された丸島先生から、「真田丸」の裏話を中心に、教科書等で見られる源頼朝、武田信玄その他の武将の肖像画は、本人でない等のお話を聴くことができました。
2023	5月20日	世田谷キャンパス	テーマ：「星のかけらを採りにゆく：はやぶさ2の技術とマネジメント」 講師：JAXA・ISAS 宇宙飛行工学研究系教授、はやぶさ2 プロジェクトマネージャー 津田 雄一氏		予定

2013/9/28 第1回総会、2014/6/21総会、2020/5/16総会の講演はありませんでした。

## 各学科同窓会に対応する学部・学科

同窓会名称	学部・学科等
機親会	<工学部>機械工学科、生産機械工学科、機械システム工学科 <理工学部>機械工学科、機械システム工学科
電友会	<工学部>電気工学科、電気電子工学科、電気電子情報工学科、電気電子通信工学科 <理工学部> >電気電子通信工学科
緑土会	<工学部>土木工学科、都市基盤工学科、都市工学科 <建築都市デザイン学部>都市工学科
如学会	<工学部>建築工学科、建築学科 <建築都市デザイン学部>建築学科
通友会	<工学部>電気通信工学科、電子通信工学科 <知識工学部>情報ネットワーク工学科、情報通信工学科
経友会	<工学部>経営工学科、システム情報工学科、経営システム工学科 <知識工学部>応用情報工学科、経営システム工学科、知能情報工学科 <情報工学部>知能情報工学科
情智会	<工学部>電子情報工学科、コンピュータ・メディア工学科 <知識工学部>情報科学科 <情報工学部>情報科学科
医工会	<工学部>生体医工学科、医用工学科 <理工学部>医用工学科
原子力友の会	<工学部>原子力安全工学科 <理工学部>原子力安全工学科 <工学研究科>原子力工学専攻、エネルギー量子工学専攻、共同原子力専攻 <総合理工学研究科>共同原子力専攻
さきがけ	<知識工学部>自然科学科 <理工学部>自然科学科
源友会	<工学部>エネルギー基礎工学科、環境エネルギー工学科、エネルギー化学科 <理工学部>エネルギー化学科
等々力会	<都市生活学部>都市生活学科 <人間科学部>児童学科
楷の木会	<環境情報学部>環境情報学科、情報メディア学科 <環境学部>環境創生学科、環境マネジメント学科、環境経営システム学科 <メディア情報学部>社会メディア学科、情報システム学科
新美砂会	<東横学園女子短期大学>家政学科、生活学科、英語英文学科、国語国文学科、 言語コミュニケーション学科、ライフデザイン学科、保育学科

## ■機械工学科

主任教授 榎 徹雄

卒業生の皆様方には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。令和4年度の機械工学科の近況をご報告させていただきます。

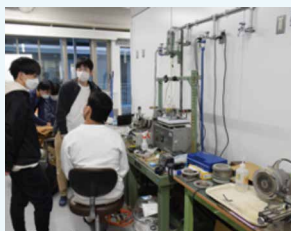
新10号棟が完成し、10月末現在機械工学科のほぼ全研究室の引っ越しが終了致しました。ここ数年、多摩川からの漏水事故の影響やコロナ禍により卒研究生が研究室に入れない状況が続きましたが、新棟に移動後は、学生達は心機一転新築の建物から得られる雰囲気だけでなく、学生達の気持ちも含め明るい環境で研究に頑張っています。写真は表面加工研究室の現在の状況となります（学生同意済み）。奥側のガラスは教員室との境の窓となり、一望できるようになっています。

コロナ禍で中止されていたTAPも再開され、夏休み以降18名の学生がオーストラリアへ留学しております。本誌が発行される11月中旬には元気な日本へ帰国してくれるものと信じております。

次に就職の状況としては9月時点での内々定は学部生で約80%、院生が96%となります。これまでコロナ禍等で少し厳しい状況でしたが、内定率は10%前後改善され現在は順調に推移しております。



表面加工研究室の現在の状況



## ■電気電子通信工学科

主任教授 野平 博司

4月に電気電子通信工学科4期生である新入生を迎えました。2021年度と同様にコロナ禍ということで、フレッシュャーズキャンプは1泊2日の形式ではなく、教室で2日間の形式で、教務ガイダンス、友達作り、グループ討議「Youは何しに都市大へ」などを行い、新学期がスタートしました。本年度の講義は、基本対面で行われており、大学本来の授業に戻りつつあります。今年のもっと大きな学科のニュースは、新10号館（以下「新棟」）の一期工事が完成し、旧電気電子工学科の先生方の研究室が新棟に引っ越したことです。新棟PBL教室でのひらめきプログラムの授業風景（ご参照 <https://www.se.tcu.ac.jp/news/1821/>）のように、学生実験を含む授業の一部が新棟で行われています。また、新棟は、廊下から教室内の学生の様子が見やすくなるような工夫もされています。ぜひ見学に来ていただければと存じます。また、文科省に採択された「ひらめき・こと・もの・ひと」づくりプログラム（<https://hirameki.tcu.ac.jp/program/curriculum/>）は、2023年度には、全学に展開される予定です。最後に、令和4年度の就職状況は、94%内定（11月末時点）です。これからも100%を目指して教職員一同学生指導を工夫して行きます。学科の最新情報は、学科のブログ <http://grp.tcu.ac.jp/eec/> をご覧ください。



新棟での授業風景

## ■機械システム工学科

主任教授 宮坂 明宏

校友会皆さまの変わらぬ暖かいご支援にこの場を借りて感謝申し上げます。

機械システム工学科では、2022年3月に第22期生122名が卒業、機械工学システム専攻修士32名が修了し、4月に学部新入生119名、大学院31名が入学しました。

今年度のフレッシュャーズキャンプはコロナウィルスの感染状況を鑑みて、宿泊を取りやめて感染予防を行いながら、4月7日（木）と8日（金）の二日間で、機械システム工学科のフレッシュャーズキャンプを実施いたしました。一日目はお台場の東京国際交流大学村でガイダンスと日本科学未来館の見学を実施しました。二日目はみなとみらいのパシフィコ横浜で飛行距離を競う室内紙飛行機大会を実施しました。

本学科では2021年度にJABEE（日本技術者教育認定機構）認定を受けることができ、2020年度からの認定開始となり、JABEEが認定したプログラムの修了者は、文部科学大臣の指定を受けて技術士の第一次試験を免除されます。今後ともに教育の質の向上を目指して努力をして行く所存でございます。

授業では、コロナ感染の状況に応じて対面授業とオンラインと対面のハイブリッド授業を行いました。学生活動も制限せざるを得ない状況でした。今後、ウィズ・コロナに移行すると思いますが、感染対策を適切に講じつつ、教育活動も着実に進めて行く所存です。皆さまは今後ともよろしくご支援のほどお願い申し上げます。



フレッシュャーズキャンプによる学会説明会



フレッシュャーズキャンプにおける紙飛行機大会

## ■医用工学科

主任教授 和多田 雅哉（1984電気）

医用工学科は2007年に生体医工学科として開設し、2013年に現在の名称に変更されて2022年で創設16年目となります。社会人となった多くの卒業生は、新しい医用機器の設計開発などの境界領域の研究者や技術者となり活躍しています。2022年現在の研究室構成は、臨床器械工学研究室 [森教授、和多田]、生体計測工学研究室 [京相教授、島谷准教授（2023年3月定年退職予定）]、医用電子工学研究室 [桐生教授]、医用材料工学研究室 [桃沢准教授]、細胞・組織工学研究室 [小林講師] の5研究室体制となります。その他、実験・実習室の管理運営を担う実習管理室 [柴田技士] があります。

2021年に続き、2022年の新入生フレッシュャーズキャンプは学内研修のみの実施となりましたが、感染拡大防止策をとりながら「対面」で行なうことができました。例年実施している「普通救命講習」は、2022年も新入生全員に受講してもらいました。講師の先生による「救命」の講義（写真）に続き、ダミー人形による心肺蘇生法およびAEDを用いた除細動を体験しました。今後も、新入生には本講習を受講してもらおう予定です。

ここ数年の本学科の特徴として女子学生の増加が挙げられます。2022年の新入生は約39%が女子学生であり、機電系エンジニアリング職への関心が高まっていることを示していると考えられます。境界領域である「医用工学」分野への志望に対して、「指導体制」「教育」「研究活動」を強化していきたいと考えております。



普通救命講習の受講の様子



## ■応用化学科

主任教授 高橋 政志

未だコロナ禍が収束していない状況でも世間的には危機意識が大分薄らいできたようで、都市大でも4月から対面での授業再開となつてようやくキャンパスに活気が戻ってきました。本学科も92名の新生を迎え、応用化学科としての2年目を順調にスタートさせています。このところ対外的に化学系の学科として認知されてきた影響が、1年生の女子比率が35%を超え、全体でも30%となつて大分華やかになりました。また、学部名称と学科名称の変更が続いたことで、3通りの学部名・学科名の組み合わせ（4年生:工学部エネルギー化学科、3年生:理工学部エネルギー化学科、1・2年生:理工学部応用化学科）が混在しています。大学の行事に関しては、今年度はフレッシュャーズ・キャンプで学外での行動が許可されたことから、桜咲く上野公園内を班単位（7~8人）で巡るプログラムで国立東京博物館や国立科学博物館などを見学しました。オープンキャンパスや科学体験教室、世田谷祭なども規模を抑えつつ対面で実施でき、これらのイベントに学科研究会（化源会）が積極的に参加して活躍していたのが印象的でした。

学科教員については今年度顔ぶれに変化がなく、皆さまに報告すべきニュースも、宗像先生が立て続けに起きたパソコンのトラブルで四苦八苦したところくらいしか思い当たりません。しかしながら、昨年度着任された秀島先生と大野先生を加えた全教員が協力して、日々教育と研究にあたっていることを申し添えさせていただきます。校友会の皆さまには今後とも変わらぬご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願ひ申上げます。



フレッシュャーズ・キャンプで上野の国立東京博物館を見学



科学体験教室に化源会の3グループが出席

## ■原子力安全工学科

主任教授 鈴木 徹

原子力安全工学科では2022年度に50名の新生を迎えました。2020年初頭より猛威を振るって来た新型コロナの影響によって恒例のフレッシュャーズキャンプ（例年1泊2日）は2021年度まで実施できませんでしたが、2022年度は日帰りながら東海村のテラパークと原子力科学館の見学に行くことができました。また、その翌日には新生全員を世田谷キャンパスの大教室に集めてテーマディスカッションとプレゼンテーション大会を開催し、都市大でこれから原子力を学んでいく意識の醸成につなげました。新型コロナの影響で目まぐるしく変化した授業形態も2022年4月からは教室における対面形式の講義が主体となり、キャンパス内にも活気が戻って来ています。

世田谷キャンパスでは敷地の約1/3に相当する建物をリニューアルする工事が進められてきましたが、新10号館の第1期工事の完了を受けて2022年9月、原子力安全工学科の全研究室と学生実験室、学科多用室が移転しました。当学科はこの新10号館の最上階に位置することになり、その素晴らしい眺望と最新の設備とともに数年後の「都市大創立100周年」に向けて益々の発展が期待されています。卒業生の皆様がりニューアルを遂げた原子力安全工学科にお越しいただけること、教職員一同、楽しみにしております。今後も優秀な人材を社会に送り出すべく、積極的な活動を続けていきますので、ご支援・ご指導の程、宜しくお願ひ致します。



新10号館の吹き抜け廊下



新10号館5階に移転した学生実験室

## ■原子力研究所

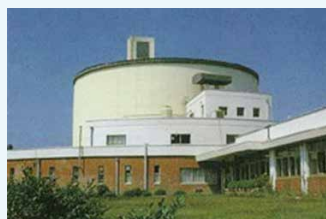
施設管理室長 内山 孝文（2001エネルギー基礎）

### 「五島慶太翁の情熱のこもった原子力研究所」

東京都市大学には、研究用原子炉施設・東京都市大学原子力研究所があるのをご存じですか。1960年に神奈川県川崎市麻生区王禅寺の地に開設され、今年で開設から62年目となりました。本原子力研究所は、開設当時の学校法人五島育英会理事長であった五島慶太先生が、今後、原子力の平和利用の研究が科学技術の発展と産業の将来に極めて重要な関係をもたらすであろうという将来を見据え時代を先取りする並々ならぬ情熱の下に開設されました。開設後は、その精神を引き継ぎ様々な研究が行われ、数多くの研究実績を残すと共に、社会・産業界に多くの人材を輩出し今日に至っています。現在は、廃止措置中の原子炉となり、原子炉の運転は行われていませんが、新たに導入した放射線発生装置や放射性同位元素・放射線を活用した学生実験や研究、そして、原子炉の廃炉に向けた研究、放射性廃棄物の処理処分問題等に関する研究等、研究や教育活動の場として今もなお研究所の情熱の火は灯り続けています。当施設の活動状況等については、HPでも紹介しております。是非一度ご覧ください。（原研HP:<https://atomsun2.atom.tcu.ac.jp/>）



建設当時の原子力研究所の様子



現在の原子力研究所の様子

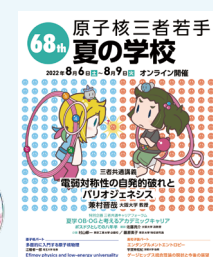
## ■自然科学科

主任教授 橋本 義武

自然科学科は定員25名で発足してから2022年度で14年目となります。理工学部自然科学科となってからは3年目、現在の定員は60名です。歴史ある他学科の皆さまから教えられ支えられて歩んで参りました。2019年度の水害、2020-22年度のコロナ禍と、厳しい状況が続いており、学科の教育だけでなく全学の数学・理学の基礎教育をも担っている自然科学科各教員は、オンライン授業への対応等で多忙を極めておりますが、学生さんたちのため、本学の発展のため我々にできることをしっかりやって参りたいと思っております。

2022年3月をもって長年自然科学科のため武蔵工業大学・東京都市大学のため尽力された天然物化学研究室主任原絹子講師が退職しました。これまでのお働きに感謝しております。代わって9月に田中健太郎准教授が赴任し、新しく生物地球化学研究室 (Laboratory of Biogeochemistry) を立ち上げました。自然科学科にまた新しい風が吹き、ますます充実した研究・教育が行われる学科となりますことを信じ、願っております。

この場をお借りして自然科学科メンバーの2022年の活動を一部ご紹介いたします。6月に萩谷宏准教授を筆頭著者とする図鑑NEO『岩石・鉱物・化石』（小学館）が出版されました（写真左）。8月に西村太樹准教授が原子核三者若手夏の学校の講師を務めました（写真右）。8月に中島保寿准教授の化石に関するコメントが毎日新聞に掲載されました。9-11月に津村耕司准教授の提案によるNASAの宇宙望遠鏡JWSTの観測に関する同准教授のコメントが新聞各紙に掲載されました。11月に自然科学専攻修士1年の福井陽喜さんが第5回都市大研究プレゼンコンテストで優秀賞を受賞しました。



## ■建築学科

主任教授 堀場 弘 (1983建築)

2023年度は例年よりやや多い142名入学(定員120名)となりました。2022年9月に設計分野の教育講師として根市先生が着任しました。大学院も含めて設計の授業全般に関与いただきます。本学卒業後イスのメンドリジョ留学を経て、設計事務所を自営され、若手ながら注目されています。授業以外でも学生と年齢も近く良い影響を期待しています。コロナ対応は2022年度の卒論発表会はオンライン、卒業設計は発表学生との対面となりました。かなり限定された環境で、学生は制作に苦労したと思いますが、それを感じさせない出来栄でした。前期は、対面授業も再開されオープンキャンパスや秋の学園祭なども対面開催でした。感染者は学生、教員にも少数ながらも日常的にでていて、いろいろと気を使う運営となっています。学園祭では恒例の如学会による100人展も開催され、今年から若手の運営関係者のご尽力もあり多くの閲覧者がありました。また、手塚先生よりグランドピアノの大学への寄贈があり、製図室北側エントランス付近に置かれていて、どの学科の学生も自由に弾けます。学園祭ではプロの方の演奏会も開かれました。学内に文化的な雰囲気を感じられればと思います。入試制度については毎年少しずつ改善を試みっていますが、総合型選抜2段階で、空間構想力試験と題して、ドローイングと文章による試験を実施しました。他学科に比べて建築学科は、総合型、帰国、公募推薦などの志望者は多く、ペーパー試験によらない入試の一つとしてうまく定着させたいと考えています。多様な資質や能力を持つ学生が混じりあうことで、学科全体の学習活動の活性化を期待しています。



製図室ピアノ演奏会



卒業設計の講評会

## ■情報科学科

主任教授 向井 信彦

情報科学科の近況報告を致します。2021年度(2022年3月)の卒業生は118名で、2022年度(2022年4月)の新入生は107名でした。入学式は久しぶりに体育館に集合して対面で開催されましたが、関係者のみに限定されたので、一般教員はライブ中継の視聴となりました。また、保証人への教職員の紹介も見送られました。教職員が新入生と対面できたのは1年生のクラス担任ガイダンスでしたが、密を避けて2教室に分かれての対面でしたので、1教室は対面、もう1教室はオンラインというハイブリッドになりました。フレッシュキャンプも当初は宿泊の計画でしたが、最終的には宿泊を伴わないで2日間の開催となりました。そこで情報科学科では、初日は学内にてポスター発表と履修相談を行い、2日目に国立オリンピック記念青少年総合センターにてチームビルディングを行うことにしました。午前はチームを作って体を動かし、午後はセンター周辺にあるスポットを巡って写真を撮るという競技でした。コロナ禍とは言え、久しぶりに新入生の元気な声を聞くことができました。授業も前期(第1クォーターと第2クォーター)は原則対面授業でしたが、残念ながら、第2クォーターの期末試験は対面で試験ができませんでした。後期(第3クォーター)も現在のところ、原則対面授業となっており、現状が続けば試験も対面が可能かと思われます。全国的にもコロナの感染者は減少傾向にあるため、海外出張も許可されるようになってきました。また、オーストラリアの留学プログラムであるTAPも学生の派遣が順次可能となり、大連交通大学からの留学生も日本への入国が許可されて、コロナ以前のように異文化交流も行えるようになってきました。まだまだ先が見えない状況ではありますが、今後とも、よろしくお願ひ致します。



フレッシュキャンプでの表彰式

## ■都市工学科

主任教授 白旗 弘実

都市工学科の近況報告をいたします。2022年度になりまして、112人の新入生が入学しました。最初の行事であるフレッシュキャンプですが、こちらは遠隔見学で行いました。二日間両日ともに大学で行いましたが、第二東名高速道路で新開通した伊勢原大山以西を現地から届けさせていただきました。また、豪雨に見舞われた岡山県倉敷市の堤防復旧・復興の様子も遠隔での見学となりました。見学受け入れもNEXCO中日本や倉敷市にとっても初めてでしたが、非常にスムーズに行われ、最後は感謝の拍手で終わりました。ありがとうございました。

2022年度は始めから対面での授業となりました。今までと同様、高熱がある場合などは大学に来ることは禁止されました。授業は録画され、対面での出欠のいかに関わらず、何度でも授業内容を確認できるようにしました。

前期も順調ではあったのですが、7月に入ってからコロナウイルス感染者(濃厚接触者も)が増加して、期末試験は遠隔方式となりました。夏休みのインターンシップは対策を取りつつ、対面で行われた会社が多かったように思いました。読者(OB・OG)の会社にお世話になった学生もいたかもしれません。ありがとうございました。

昨年以前よりお伝えしていた新校舎が8月に完成されました。下旬から引っ越しが始まり、現在(10月末)では都市工学科のすべての研究室が新校舎に移りました。都市工学科は1階から3階まで、校舎の南東側を占めています。ぜひとも楽しみにして本学へお越しいただければと思います。

本学の海外プログラムの中心であるTAPも今年度より再開し、2年から4年生が参加しています。

学内では引き続き感染防止に取り組みます。校友会、緑土会の皆様におかれましてもお体にお気をつけください。写真は新島の10号館です。



新島の10号館

## ■知能情報工学科

主任教授 森 博彦

2022年夏にテニスコートと旧8号館跡地に新10号館が建設されました。知能情報工学科はこの建物の5階に全研究室が移転します(この原稿を書いている時点では一部研究室が移転済み)。これまでいくつかの建物にわかれていた学科が、ようやく一箇所にまとまることのできるようになりました。

まもなく、旧10号館の取り壊しが始まり、その跡地にもう1棟建設し、新10号館と連結する予定です。OB・OGの方の中には、旧10号館で青春を過ごされ思い出が詰まっている方も多くいらっしゃるでしょう。皆様が知っているキャンパスとは別ものようになってきていますので、そのすっきりきれいになったキャンパスの見学がてら、ぜひ大学に遊びに来てください。

学科のメンバーにも変化がありました。2022年3月をもって、渡部和雄先生が定年退職されました。長きにわたり、横浜キャンパス・世田谷の両キャンパスで本学の発展のために尽力していただいたことに一同感謝しております。本当にお疲れ様でした。

渡部先生の後任に、2022年4月より桂卓成先生をお招きしました。桂先生のご専門はニューロマーケティングです。生体信号を使ってマーケティングを行う研究をされており、知能情報工学科にこれまでなかった分野で、学科の特徴の一つになるだろうと期待しております。

最後に、大変悲しいお知らせがあります。2022年10月9日に兼子毅先生が急逝されました。緊急入院されましたのは、9月に研究室を新しい建物に引っ越しされた直後のことです。その後かなり回復されているとの知らせを聞いていて安堵していたのですが、急な訃報に一同大変驚くと同時に、大きなショックを受けました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。



知能情報工学科メンバー



## ■都市生活学科

学部長 坂井 文

都市生活学部は2022年4月、世田谷キャンパス7号館に移転しました。1、2階中央の吹き抜けの大教室を取り囲むように様々なラーニングコモンズが設けられ、1階のナナカフェとともに、キャンパス内の他学部の学生との交流の場となっています。

6月30日には都市生活学部フォーラムを大教室にて開催し、『交響する地域の日常とパブリック』のテーマのもと、現在展開中の都市生活学の実践プロジェクト事例の報告をもとに、社会で活躍する学外のトップランナーとともに、都市生活学の現在と未来のあり方を議論しました。学外からの154名を含む233名の参加があり、これからの都市生活の価値創造を推進するプロジェクトの未来について活発な意見交換が行われました。

また本格的に始動した国際コースと都市生活創造コースは、アジアの3カ国の大学の学生・教員との国際ワークショップをオンラインにて行い、その取り組みは都市大・教育フロントランナー賞（TCU-EFR賞）の授業デザイン優秀賞を受賞しました。TAP再開や海外研修等の国際的な企画も進行しています。学生の就職活動については、すでに各界でご活躍の卒業生やキャリアセンターのサポートもあり、ほぼ100%の就職率となりました。と同時に、大学院進学者の数も増加しています。都市生活学専攻はこれまでの修士課程に加えて博士課程が開設されています。

都市生活学部の近況は、学部ホームページにニュースとしても掲載されています。是非ご覧ください。

<http://toshiseikatsu-gakubu.jp/>



都市生活学フォーラム開催

## ■児童学科

人間科学部長 早坂 信哉

人間科学部は2022年4月に無事等々力キャンパスから世田谷キャンパス（以下SC）への移転を完了しました。本学部の教員研究室は新築のSC7号館4階にあります。また実習指導室、保健・調理実習室、造形室、ピアノ室など主に本学部の学生が使用する施設も7号館内にあり、いつも学生のにぎやかな声が聞こえています。移転当初はキャンパス内で教室を探しまわる学生の姿もありましたが、学生たちの順応力が素晴らしいとあっという間にそれぞれお気に入りの場所を見つけて楽しそうに談笑している姿をみると、改めて移転してきて良かったなと思います。また、併せて「びっぴ」もSC5号館に移転し、等々力のびっぴにはなかった屋外テラスも備えても明るくひろびろとした空間です。まだ人数制限をして予約制での運用ですが、近所の小さなお子さんにはとても人気でいつも満員御礼状態です。ぜひお近くにおいでの際は7号館や5号館のびっぴを訪ねてください。先日卒業生がお子さん連れてびっぴを利用いただき、私も懐かしい思い出話をする事ができました。

2023年度からは学科名称が児童学科から人間科学科と変更になり、2023年度以降入学した学生は人間科学科卒業となります。これまでは児童学科という名称ではあったものの、実際の学修内容は子どもだけでなく成人や高齢者も含めた多くの事項を包含していました。またSCへ移転することで他の理工系学部との連携も容易になることから、「人間科学」を広く学べることを社会や受験生に正しく伝えるために名称を変更しました。保育士資格や幼稚園教諭免許を取得できることには変わりありません。都市大ならではの系科教育もできる保育者が育つ日も近いと考えています。ぜひ周りの方へ受験をお勧めいただくと幸いです。



新しくなった「びっぴ」  
中央の特大滑り台は子どもに  
大人気！



7号館4階の実習指導室

## ■環境創生学科

主任教授 飯島 健太郎

COVID-19の影響下において、学生の学びの環境は大きく制約を受けてきたが、社会的な動向とも相まって、これまでの「徹底した制限」から「適応」への歩みを進めつつある。これまで同様の感染拡大防止対策を講じつつも対面授業を原則とし、課外活動も順次可能なステージへと調整された。あらためて教育環境やその効果としての対面カリモートかの議論も活発化し、またコロナ世代の心のケアも重要視されるなかで、とりわけコロナ禍入学世代への配慮は学科においても再重要課題の一つであった。この世代が、2022年度は3年生となり研究室配属というタイミングを迎えたことから、各研究室における活発な交流、調査実験、学会発表、地域での実践的取り組みへの参画など、それまでの時間を取り戻すかのようにリアルで濃密な活動を通じて学びを深めている。一方、体調等で従前であれば出席せざるを得なかった学生が申請ベースでリモート授業が受けられ個別の事情にも寄り添う整備が図られている。2022年度は加用准教授の研究海外派遣が実現し、その間に時差を超えつつ研究室学生指導から大学運営にかかわる各種会議に海外からリモートを通じてそのミッションをこなす試みなど、学科の教育環境、研究活動においてもSociety5.0時代に向けたポジティブな対応が加速しつつある。

学生にとって環境への学び、そして人生の学びを深めるためにはOG、OBとの交流も重要であり、校友会の皆さまには今後とも変わらぬご支援を賜りますよう、何卒よろしく願い申し上げます。



都市公園でのアンケート調査活動

## ■環境経営システム学科

主任教授 古川 柳蔵

2022年から東京都市大学では全学的にオープンミッションが開始されました。高校生に探究の課題を与え、探究プロセスを経験していただくというものです。環境経営システム学科では、探究テーマは「探究×SDGs 地域の複雑性を理解し、社会課題の解決に挑もう！未利用資源の活用 / 高齢化社会とDXの活用を通して」にしました。具体的には、町の魅力を発見し、写真を3枚撮影し、地域の複雑性を理解し、さらに地域の魅力をさらによくする方策を考えるというものです。高校生にとっては少し難しい課題でしたが、参加者はしっかりと事前宿題もこなしていました。中間発表会の時には、日本の社会課題が書かれたカードと持続可能な開発目標（SDGs）が書かれたカードを用いて一見関係ないと思われる課題でもお互い関連していることを学びます。参加者は関心が高いカードを選び、グループメンバーで関連する社会課題カードを連ね、日本の社会課題同士で、一見無関係に見えたものが、実はいろいろ関係していることに気づくのです。また、日本の社会課題が世界のSDGsとも関係していることも学びます。最終発表会では参加した高校生たちは当学科の佐藤真久教授と共に意見交換をしながら、課題解決だけでなく、さらに町を良くする方法を提案することができました。当学科では2023年オープンミッションにおいても、さらに実践しながら探究プロセスを学ぶ機会をご提供したいと考えています。



日本の社会課題カードとSDGsカードを関連づける参加者



佐藤真久教授と参加した高校生との交流

## ■社会メディア学科

主任教授 中村 雅子

社会メディア学科は、環境問題や国際問題などのグローバルな諸問題から、身近なコミュニケーションまで、幅広い現代社会の課題に対して「社会科学の視点から情報メディアを駆使して解決を図る」ことを目指す学科です。このため「調査分析力（リサーチ力）」「アイデア構築・表現力（デザイン力）」「コミュニケーション力」が身につく実践的な教育を展開しています。授業外の学びの機会でも、「神奈川4大学メディアキャンプ」など、他大学や企業、行政、地域等との協働プロジェクト型の学習機会を多く取り入れています。この2年間、対面の活動は大きく制約されてきましたが、その中でもオンラインを活用するなどできることを模索して、独自の教育・研究を継続してきました。2022年度夏以降はCOVID-19の感染状況も落ち着いてきたため、感染対策には引き続き十分な注意をはらいながらも、本来の学科の特色である学外連携やワークショップ型の活動を再開しつつあります。



オープンキャンパスでの研究室展示の様子

2022年8月のオープンキャンパスでは、3年ぶりに高校生に研究室での取り組みを展示・紹介する研究室展示コーナーを設けました。高校生からも、対面のオープンキャンパスに高い評価を頂きましたが、学科学生の生き生きとした活躍ぶりも見て嬉しい光景でした。今後も、学科の専門性を生かして、オンライン・コミュニケーションの方が効果的だったところは引き続き活かし、対面ならではの活動は対面で、とハイブリッドに活動を広げて行きたいと考えています。



歴史的な古民家を維持・保存する「都筑民家園」を取材する奥村研究室学生

## ■情報システム学科

主任教授 宮地 英生

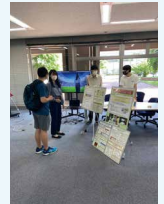
情報システム学科の特徴ある講義にLinuxサーバを用いた「サーバシステム構築」、「LAN環境演習」があります。従来はコンソールとPC1台で演習を実施してきましたが、受講生がPC必携化世代となり、個人PCを用いての演習形態に変わりました。これにより、Covid-19の状況に応じてオンラインでの演習も可能になりました。6月の横浜祭は3年ぶりに対面形式でした。チケット予約制、模擬店無しではありませんでしたが、研究室展示も復活、新しい試みとしてプロジェクションマッピングが実施されました。11月に開催された第5回都市大研究プレゼンコンテストでは、3年生の御手洗拓弥さんと平綿素望さんが「架空の思い出によるモザイクアートの自動生成」という進化計算アルゴリズムを用いた研究で優秀賞を授与されました。昨年度に定年された藤井哲郎名誉教授の後任として三川健太先生が新しく着任されました。三川先生は本学のOBであり機械学習とデータ解析を専門とされています。



プロジェクションマッピング（横浜祭）



新着任の三川先生



研究室展示（横浜祭）



個人PCを使ったサーバ演習



都市大プレゼンコンテスト優秀賞の二人

## ●共通教育部

### ■人文社会科学系

主任教授 渡辺 一郎

本学系は人文・社会科学教育部門・体育教育部門・教職教育部門の3部門からなり、各部門それぞれの課題を追究し、さらなる全学教育の発展及び社会に貢献できるよう日々努力を重ねています。

#### ◎人文・社会科学教育部門

教授 岡山 理香

2022年度は、コロナ禍も3年目をむかえましたが、4月より対面講義が再開されました。世田谷キャンパスの新しい7号館に等々力の2学部が移ったことで、一気に人口も増え、久しぶりに大学らしい活気が戻って来ました。それに伴い、人文・社会科学教育部門が受け持つ講義の人数も増え、時間割、教室配当などで教育支援センターとともに工夫を凝らしているところです。

現在、人社部門は教授4名、准教授2名で構成されています。2023年度は、留学生に向けての新しいプログラムも始まります。コロナ禍でいかに対面での講義が重要かをあらためて知ったわけですが、オンライン講義にもさまざまなメリットがあります。対面、オンライン併用しながら、講義を組み立てることで、まずは学びの楽しさを学生に伝えていければと思います。

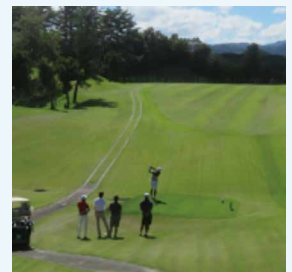
#### ◎体育教育部門

教授 久保 哲也

現在、体育教育部門はSC4名、YC1名で構成されており、教育、研究はもちろんのこと、学生部委員やハラスメント相談室、体育会顧問、科学体験教室責任者等で積極的に大学運営業務に取り組んでおります。

2022年度の2キャンパス化による大幅な学生増に伴い、体育施設も2つのアリーナや更衣室等が改修され、大いに活用しております。実技授業では女子学生が増えたことにより、一層賑

やかさが増しているように感じます。また、3年ぶりに集中授業「ゴルフ」が開講されました。まだ宿泊が認められないため通いでの実習となりましたが、青空の下、広大でとても綺麗なコースに感動しながら、右へ左へと自分の打ったボールを追いかけ走り回っている姿や実習後の充実感溢れる感想から、実りある授業になったと思っております。今後も学生の心身共に健全な発育・発達に貢献できるよう、部門一丸となって更なる努力をしていく所存です。（写真：集中授業「ゴルフ」の授業風景）



#### ◎教職教育部門

教授 井上 健

教育職員免許法施行規則改正に伴い、2022年度から「教職課程の自己点検評価」が義務化されました。これは、教職課程の認定を受けている大学が、その社会的責任を果たしていくために、教職課程の状況について自ら点検し、優れている点や改善を要する点などについて評価を行うものです。本学でも、教職課程運営委員会が中心となり、精力的に点検評価を進めております。

言うまでもなく、教職課程は学部・学科に設置されるものですから、「学位プログラムの目的や体系性」との連関が重要であると同時に、「教職課程としての目的や体系性」を考えて特色ある教育課程を編成し、指導体制を整備していく必要があります。今回の自己点検評価を通じて、それぞれの学部・学科のカリキュラムポリシー、ディプロマポリシー等をふまえて「教職課程教育の目的」や「育成をめざす教員像」を再確認し、共通理解や協働が一層進んだことが大きな成果です。

## ■自然科学系

主任教授 山口 勝己

共通教育部自然科学系は、数学教育部門、情報教育部門から構成されており、2022年度は8名の専任教職員、53名の非常勤講師という体制で、主に理工学部・建築都市デザイン学部・情報工学部の工学系基礎科目の教育と研究を担当しています。また、物理学教育部門と化学・生物・地学教育部門については、自然科学系の教員が担当しており、数学教育部門についても自然科学系の教員と連携して教育を行っています。また、これまでと同様に、大学院総合理工学研究科の共通教育も担当しています。

今年度からはコロナ感染を警戒しつつも原則対面授業に戻りましたが、コロナ禍をきっかけで始まったオンライン授業を実施する中で開発した新しい指導方法やオンライン教材などを活用し、コロナ前より高いレベルの授業を提供できるよう非常勤講師の先生方も含め全員で努力しています。

### ◎自然科学系 / 数学教育部門

昨年度で森田教育講師が退職されましたが、今年度より新たに田邊教授、河合教育講師をお迎えし、井上准教授、古田准教授、出末准教授と合わせ5名体制となっています。また、自然科学系の橋本教授、中井准教授、服部准教授と連携して教育研究活動を行っています。

### ◎自然科学系 / 情報教育部門

昨年度で荒木教育講師が退職されましたが、新たに千葉教育講師をお迎えし山口教授、安井講師と合わせ3名体制で、主に理工学部・建築都市デザイン学部の情報基礎教育を行っています。また、情報基盤センターの運営にも参画しています。

## ■総合研究所

所長 野中 謙一郎

東京都市大学総合研究所は、平成16年4月に武蔵工業大学総合研究所として等々力キャンパスに設置され、以来、本学の特色ある先端的な研究を推進すると共に、大学院生、学部生に対し、先端的な教育環境を提供して参りました。2022年度の研究組織は、機構が2、研究センターが11、卓越教員研究室が2、重点推進研究ユニットが6からなる体制でした。研究分野は、未来都市、ナノエレ、インフラ、エンジン、緑地創生、地盤、子ども・福祉、ロボット、ミネラル結晶体、災害制御、太陽電池、マイクロシステムなど多分野にわたります。未来都市研究機構は2023年度からは第3期として新たな都市研究に挑むとともに、サステナビリティ学連携研究センターを設置してグローバルな課題に取り組みました。他の研究組織も外部資金を獲得しながら研究を推進するとともに、総研セミナーによる研究紹介や成果報告を行っています。また等々力キャンパスの総合研究所は2023年3月末で閉鎖し、世田谷キャンパス6号館に移設します。今後も大学全体の研究をリードしていけるように一層の尽力をしていく所存です。



等々力キャンパスの総合研究所と世田谷キャンパス新6号館

## ■外国語共通教育センター

主任教授 植野 貴志子

外国語共通教育センターでは全学統一カリキュラム「都市大スタンダード2.0」に基づき、英語の運用能力を養うとともに、国際社会で求められる幅広い教養や英語以外の外国語を学ぶための多様な科目を展開しています。

2020年度以降、新型コロナウイルス流行の影響を受け、オンライン、ハイブリッドを含む異なる形態による授業を行ってまいりましたが、2022年度は対面授業が本格化し、キャンパスににぎやかさが戻ってきました。外国語の授業では、グループワークやプレゼンテーションなど、学生同士、あるいは、教師と学生のコミュニケーションに基づく活動が重視されますので、教室で互いの顔を見て、ことばを交わすことができる環境が回復したことを大変嬉しく思います。

コロナ禍にあって、オンライン、ハイブリッドの授業を工夫してきた経験から、今後の外国語教育をより柔軟で効果的なものにしていくための知識や技量が構築されました。例えば、オンライン上で参加者間のやりとりを活発にしながら学び合う方法として Nearpod というツールを一部の授業に取り入れたこと、WebClass や Teams を有効活用し、参加者の情報共有を円滑にしたことが挙げられます。

また、2022年度には、継続的な学習を促し英語基礎力を増強することを目的として導入した1年生対象の英語 e-learning が2年目を迎え、定着してきました。堅実な取り組みにより、ほとんどの学生が目標スコアを達成することができました。

外国語共通教育センターが提供する授業が、学生の皆さんにとって、将来のキャリアを見据え、自律的な学びを進展させていくための契機になればと願っています。より効果的な外国語教育が提供できるよう外国語共通教育センターの体制を強化していきたいと考えています。

## ■ナノ科学技術学際研究センター

センター長 野平 博司

ご存じのように、2020年度、2021年度に引き続き2022年度もコロナ渦ですが、ワクチン接種等の対策により、一時よりは世の中がだいぶ落ち着いてきたことと存じます。ナノ科学技術学際研究センターにおいても、感染対策を行い、また“3密”を避けるということに留意して活動を徐々に再開しており、実際の機器利用は、写真のように徐々に例年通りの利用に戻りつつあります。また、本年度は10/28に表面技術協会関東支部主催の初心者のための分析セミナー（表面技術協会）をオンラインで開催しました。さらに、オープンキャンパス時のナノセンターの見学会の開催、また小山高校や荏田高校の生徒・父兄の見学を行いました。12月以降には、東海大学との連携による機器利用説明会や分析技術講習会をオンサイト/オンラインのハイブリッド形式での開催を予定しております。

来年度は状況次第ではありますが、本学の研究活動を支援するために、機器分析セミナーの共同開催や SCAN TECH 2023の本学現地での開催などを予定しています。



ナノ科学技術学際研究センター



現在の利用風景（11月）

## ■機親会

会長 大谷 真一 (1976機械)

機親会・2022年度の主な活動報告をお知らせ致します。

- 1) 理事会開催 5月28日(土) ハイブリッド方式(対面+オンライン)にて理事会を開催しました。
- 2) 理事・評議員会開催 6月18日(土) ハイブリッド方式にて理事・評議員会を開催しました。機親会学生会、学生フォーミュラ(Mi-Tech Racing)の活動報告、活動計画の説明もありました。
- 3) 総会開催 11月12日(土) オンラインにて総会を開催しました。山田会長代理の挨拶、機械システム工学科宮坂主任教授による機械システム工学科及び大学の近況報告があり、神田総務理事の事業実施報告、土方会計理事による会計中間報告がありました。

基調講演は、機械工学科 伊東明美教授(内燃機関工学研究室)の「本学の水素自動車研究の歴史と最近の動向」で、1970年から水素自動車の研究が始まり1974年に水素ポンペを搭載した武蔵1号が環八を疾走して以来、種々の学協会からの要請に応じて数多くの水素自動車が開発されてきました。なかでも予混合水素エンジンで発生するバックファイアの重要な要因が点火系の残存電荷であることを突き止めた成果は、現在の水素エンジンの性能向上に大きく貢献しているとのこと。当日は、当時開発に携わった内燃機関工学研究室の卒業生による当時の様子や苦労、その後の人生に大きな影響などビデオ映像で語られました。また当時TVで放映された貴重な映像を交え、本学の水素自動車の歴史を技術的な視点で詳しく講演して頂きました。現在、環境省の予算を得て、既販重量車のディーゼルエンジンを水素エンジン化するプロジェクトが推進されており、ディーゼルエンジンに匹敵するエンジン性能を確保する必要があり、本学におけるこれまでの研究成果がこれを支えていると熱く講演されました。

当日は、オンラインにて約30名の卒業生の参加がありました。次年度は是非とも対面による開催を期待して閉会となりました。



1974年 日本初の水素自動車「武蔵1号」環八を疾走

## ■電友会

会長 石田 弥 (1970電気)

2022年度も新型コロナ感染予防のため会員交流は実施できず残念でしたが、新学科同窓会発足に向け前進した。今後の学科同窓会の発展に期待したい。

### ●主な活動計画

- ①幹事会 2022年5月14日
  - ・2022年3月電気電子通信工学科の学生が卒業するに合わせ新学科同窓会の発足を支援することとした。
- ②10号館メモリアルツアー 2022年5月14日
  - ・10号館が解体されるので、江原名誉教授に参加頂き見学し、参加者は学生時代の思い出話で盛り上がった。
- ③電気電子通信工学科同窓会に関する通友会との打合せ
  - ・2022年9月20日通友会 藤川会長、石田、中澤が出席し、学科に学生の代表選出を要望することとした。
  - ・その後学科より学生代表選出依頼書の要望があり、通友会 藤川会長、電友会石田会長連名で提出した。
- 学生支援 電友会会長賞授与(敬称略)
  - ・修士課程: 高木真宏、井上貴裕、南雲幹太
  - ・学部: 金澤怜奈・西郷謙伸・北吉絵海・飛田章宏
- 連絡先
  - 事務局: 事務局 : denyukai@tcu.ac.jp (担当: 鈴木憲史)



電友会長賞授与



10号館見学会

## ■緑土会

会長 松浦 弦三郎 (1976土木)

今年は緑土会総会を11月12日に大学の教室を会場としてハイブリッド形式で行いました。総会終了後は、新10号館が完成し、思い出深い旧10号館が12月から解体されるということで両方の校舎の見学会を行いました。

既に新10号館への引越は完了しており、現在は、旧10号館のコンクリート研究室は廃棄物等の一次仮置き場になっています。他の研究室の状況も緑土会ホームページに掲載していますので是非ご覧ください。

来年度は総会後の懇親会を大々的に行いたいと考えていますので会員の皆様のご協力をお願いいたします。



見学会の様子



旧10号館のコンクリート研究室の様子



令和4年度定期総会  
(22C教室にてハイブリッド形式)



総会終了後の集合写真  
(前会長の皆川先生も出席)

## ■如学会

会長 小林 秀憲 (1982建築)

2022年度、如学会活動は社会全体のコロナ対策に呼応し、活発化をしてきました。

2022年3月には、「如学会 NEWS 2022年号」を発行し、会員と合わせ卒業生への配付を致しました。「如学会 NEWS」は、会員の手元にリアルに届く情報として重要視しており、学科教室の先生方の紹介や、同世代会員間の対談、会員の作品紹介などを記事としています。

10月には、例年実施している「進路ガイダンス」を開催いたしました。「進路ガイダンス」は、建築系企業と学生のための恒例イベントとして好評であり、今後も継続して実施していく予定です。

11月の学祭に合わせて、今年は「建築100人展」を建築学科棟にて開催致しました。今年には在校生と連携強化するとともに、校友会設立10周年記念イベントとして、「大学ピアノ JAZZ LIVE」を開催いたしました。会員や学生のみならず一般の方や近隣の方も参加頂くことができました。



100人展ピアノライブ

通年を通して定期的に開催しているものとして、「建築学科教室・如学会連絡会」を行っています。これは建築学科の先生方と如学会間の情報共有を目的としています。同窓会活動は学科活動と連携して行われるべきもので、それにより活性化していくものと考えています。また、同様に「学生連絡会」を開始しています。学生の代表と定期的に打ち合わせを行い、学生から如学会への要望ヒヤリング、学生への同窓会活動の衆知を行っています。

まだ活動としてコロナの影響を受けていますが、徐々にではありますがアフターコロナを見据えた活動を行いたいと考えています。

## ■通友会

会長 藤川 進 (1972通信)

2022年6月11日開催の「通友会総会」にて通友会役員改選を行い、7月30日に通友会役員会をオンラインで開催し、2022年度の活動計画の検討を行いました。

しかし、コロナ禍の影響により、ほとんどの活動ができずにいます。●電気電子通信工学科の卒業生と電友会との関係をどうするか?について、同窓会担当教授と電友会役員と検討して、2022年11月7日付で「新学科同窓会の立上げ依頼書」を通友会会長と電友会会長の連名で『電気電子通信工業会教授会』に提出しました。

内容は、  
・2022年3月の卒業予定者で同窓会(仮称)電気電子通信会を設立してもらい、この新学科同窓会を通友会と電友会で支援して活動する。  
・形式としては当分の間は新同窓会の下に既存の通友会と電友会を置き、将来はこの3つの同窓会を統合することを視野に入れる。  
・2023年2月までに3者での会合を持ちたい。

です。

●2022年度も講演会の実施を決めました。  
電友会との共同開催で、学生の協力を仰ぎながら、2023年4月を目途に「校友会10周年記念」のタイアップ企画(2022年11月現在申請中)として開催を目指しています。

●「FLUX45号」は2023年3月31日発行予定で進めています。

●通友会賞の授与は例年通り実施します。

以上のような活動しかできませんでした。  
2023年度の活動計画の検討会は未だ開催していませんが、会員・教職員・学生の親睦を深めていくための企画を進めていきたいと考えています。



通友会賞受賞者



2022年の卒業生

## ■原子力友の会

羽倉 尚人 (2005エネルギー基礎)

### 対面とオンラインのハイブリッド型で総会を開催

2022年10月に11回となる総会・講演会を開催した。世田谷キャンパスの新10号館5階の原子力安全工学科・学生実験室を対面の会場とし、Zoom ミーティングルームの併用によるハイブリッド形式とした。講演会では、在学生による福島第一原子力発電所(1F)見学会の報告、卒業生による現在の業務内容と目指す技術者のイメージについて、そして教員からは2021年度に着任された中村いずみ先生による研究紹介という3本立てとした。学生からの報告では1Fを実際に見たことで原子力利用や廃炉作業についての印象がどのように変化したかを記述式のアンケート結果から分析し報告された。卒業生からは学生に向けて、どういったスキルを持った人がどこ(メーカ、研究機関、電力事業者など)で活躍しているのかという紹介があり、業界からその他大勢ではなく一人の技術者として認識されることが大切だとメッセージが送られた。中村先生からは「配管系を対象とした構造健全性評価に関する研究」と題して、これまでに取り組まれてきた研究の一端をご紹介いただいた。メーカに勤務し実際に機器設計に携わっている卒業生から非常に興味深いと感想が述べられるとともに、規格基準に関連して詳細な質問のやり取りがなされた。このような交流の機会をさらに創出していくことが同窓会の役割として大切だと考えている。  
(<https://atomsun2.atom.tcu.ac.jp/tomo/index.html>)



新10号館の学生実験室での総会の様子

## ■経友会

会長 海老沼 利光 (1974経営)

### 1) オンラインと対面のハイブリッド会議を併用

2022年度役員会を定例開催しています。事業計画、学生支援策、予算などの企画・立案・審議をしています。オンライン会議は、移動時間が節約でき、地方で活躍する現役役員とのコミュニケーションが容易にとれる利点があります。コロナ禍が一日も早く収まることを祈りつつ、今後も、「対面とオンライン」のハイブリッドで活動してゆきます。

2023年度も「総会・懇親会だけの活動」にならない様に取り組みます。

### 2) 若手の経友会活動が始まった～経工会の歴代会長がメンバー

若手OBの経工会元会長、知湊会長(4年生・3年生)及び経友会会長、副会長、幹事長からなる「エビ長会」が2021年11月に発足しました。現役世代を中心としたOB会が誕生しました。メンバーは次の通りです。有馬秀太氏(2019年卒マレリ)、上村俊晴氏(2019年卒日産)大場章行氏(2019年卒富士電機)、内藤天貴氏(2020年卒富士電機)、高野祐希氏(2023年修士卒)、鈴木翔太氏(2022年卒日産工機)、大原拓真氏(初代・知湊会会長、2023年卒)、小笠原健太氏(現・知湊会会長2024年卒予定、経友会の会長、副会長、幹事長の計11名です。「先輩～後輩」の縦の繋がりを重視し、学生支援などに取り組んでいます。下記の写真は、エビ長会のメンバーです。

### 3) 学生支援「エビ会」が7年目に!

知湊会(旧経工会)の学生の皆さんと「自主研究会:エビ会」を2016年に始め2022年で7年目を迎えました。

取り組む主なテーマ:研究室紹介、「人・もの・金・情報」、社会人のマナー、出会いと縁、就活体験談、ものづくりの原点、IEのほなし、システムとは、企業の見方



エビ長会のメンバー

## ■さきがけ

高橋 伸行 (2013自然科学)

2022年5月付で加藤広樹さん(2013卒)が会長を退任され、依田(旧姓:山本)未紗稀さん(2017卒)が会長として就任いたしました。加藤さんは2013年さきがけ設立より9年間会長として同窓会の基盤構築、すなわち①組織体制の体系化②各種イベントの定着化③さきがけ賞・かがやき賞の表彰制度の制定④ホームページ更新・会報発行など情報発信⑤校友会本部との連携業務に取り組んでくださいました。依田さんによる新体制では①在学生の課外活動支援②卒業生のさきがけ活動への取り込み③Withコロナ時代のイベントのスマート化を推進していく予定です。

また2022年度は事業企画委員会 次世代人材イノベーションプロジェクト(RINGプロジェクト)と協業を行い、昨今、話題に挙げられるSDGsに関するワークショップを二子玉川キャンパスにて開催いたしました。SDGsワークショップはイマコロボ公認ファシリテーター森井翔太さん(自然科学科2016卒)を講師としてお招きし、カードゲームを通じSDGsの本質である環境・社会・経済の繋がりがや影響を体験しながら学べるイベントとなりました。今後も新しいイベントの企画・運営を行って参りますので是非ご参加ください。

そのほか本同窓会における2022年の事業は下記の通りです。①2021年度さきがけ賞授与(6名)②会報「さきがけ」第11号発行③ホームページ更新。さきがけ賞受賞者は、近内祐香さん、金子竜大さん、金子翔真さん、大和祐貴さん、堤慶太さん、目迫拓真さんです。おめでとうございます。さきがけにおいては、新規スタッフの募集をしております。ご協力を頂けるかはsakigake\_tcu@yahoo.co.jpまでご連絡をお願いいたします。



## ■楷の木会

清田 華代 (2005環境情報)

2022年6月11日(土)横浜祭初日、オンラインにて2022年度 Homecoming Day を実施しました。第一部では、東京都市大学 環境学部 環境創生学科 田中章 教授による特別講義「好きなことをとことんやろう」、卒業生による講演では、元田慎一郎さん(2001環境情報 高田研究室/株式会社ユーモア)、三川健太さん(2005環境情報 ブレнда研究室、2007大学院・環境情報 後藤研究室/現 東京都市大学 メディア情報学部 情報システム学科)、金丸太一さん(2016環境情報 吉崎研究室/環境省南アルプス自然保護官事務所)の3名に講演して頂きました。

第二部の懇親会では、退任された先生や講演された卒業生との交流がありとても有意義な時間を過ごすことができました。来年度もみなさまのご参加をお待ちしております。



左上: 田中章教授、右上: 元田さん、  
左下: 三川さん、右下: 金丸さん

## ■新美砂会

副会長 川辺 加代子 (1975国文)

昨年4月より等々力キャンパスが世田谷キャンパスに統合となり、等々力キャンパスは閉鎖、そして11月中旬より旧家政科校舎(第一校舎)の解体作業が始まりました。また、五島育英会並びに大学のご配慮により、噴水横に設置されていた「小菅公」のブロンズ像は美砂会寄贈の紅梅・白梅とともに世田谷キャンパスに移転されることになりました。

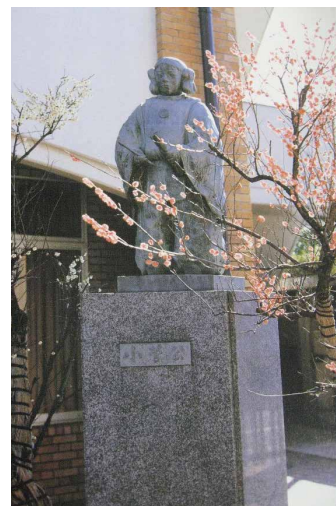
設置場所の詳細については確定次第あらためてお知らせいたしますので、世田谷キャンパスを訪れた折にはぜひご覧いただきたいと思ひます。

コロナ禍にあつて校友会行事もオンライン開催を余儀なくされていましたが、2022年度からは、総会をはじめ地方支部総会等も対面による開催がはじまりました。

その他にも校友オンラインに登録されている方には、様々なイベント情報が配信されますので新美砂会員もお友達と一っしょに、あるいは個人でも積極的に参加されています。

2023年度は校友会設立10周年にあたるため記念イベントが企画されておりますので、まだ未登録の方はこの機会にぜひ校友オンラインに登録していただき、一人でも多くの方にご参加いただき楽しんでいただきたいと思ひます。

皆さまにお会いできることを楽しみにお待ちしております。



小菅公

## 校友会館自由が丘クラブ

ハイブリッド方式\*によるオンライン会議が、常時開催可能です。

※対面(リアル)会議とオンライン会議が融合した会議

### 暗幕の設置

暗幕により残響音を低減させ、会議室の音声がオンライン参加者にも聞き取り易くなりました。

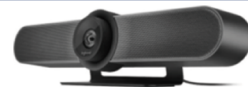
### 光通信回線の導入

データ通信がストレスなく高速に可能です。



ハイブリッド方式オンライン会議(校友会常任幹事会)

### Web会議専用カメラ



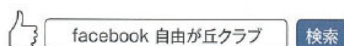
リモコン操作でWeb高画角カメラの向き、ズームが可能です。

### マイク&スピーカーシステム



5台の円形マイクを使用することにより出席者全員の音声を確実に拾うことができます。

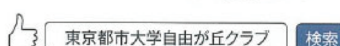
当クラブ利用の様子は、facebookでもご覧いただけます。



<https://www.facebook.com/jiyugaoka.club/>



当クラブ利用のご利用予約、お問い合わせ方法は、HPをご覧ください。



<https://jiyugaoka.club/>



## 2022年度 就職動向と支援

学生支援部長 住田 暁弘

## 新型コロナウイルスの影響と就職環境

**2022年3月卒業・修了生の就職状況:** コロナ禍2年目となった22年3月卒の就職状況ですが、最終的な就職(内定)率は全学で97.7%と全国平均95.8%を上回る堅調な実績を残すことができました。一部の業界で採用見合わせや大幅な採用縮小などの求人数の落ち込みがみられたものの、逆にビジネスチャンスを得た業界は求人数を増やすところもあった状況です。コロナ感染拡大以降、多くの企業がZoomなどのオンラインツールを導入し、従来までのスタンダードであった対面形式から、オンライン形式での企業説明会や面接、Webでの適性検査が実施されるようになり、せめて最終面接は対面で実施したいと考えられた企業はあったのですが、中には一度も企業へ出向かないまま内定、入社となるケースもありました。学生にとってはオンラインツールを駆使しながら就活を行うことが必須となった年であったと言えます。

**2023年3月卒業・修了生の就職環境:** 2023年3月卒の就職活動も、昨年に引き続き新型コロナウイルスの影響を受けることとなりました。今ではオンラインを活用した情報提供や選考が一般的となっておりますが、「本当の雰囲気が伝わらない」などの声もあり、「最終選考は対面での面接を実施する」「オンラインに加え対面式の会社説明会も選択できるようにする」など、やはり『対面』も重視する方向に戻った企業が多く見受けられます。また、3年生の夏や秋冬に実施したインターンシップ等の参加学生に対して、選考につなげる動きが加速し、学業に悪影響を与えかねない「就活の早期化」が問題視されるようになってきています。一方で職務を限定した専門職を採用する「ジョブ型採用」を採り入れる企業も徐々に増えつつあり、採用の多様化も進む傾向にあります。このような状況の中、学生は3年生の早いうちからインターンシップの早期選考やオンライン・オフライン両方の選考への対応、希望業界や企業の見直しなど、例年にはない大きなストレスを抱えることになりました。

文部科学省発表の2022年12月時点での国公立大学の平均内定率は「84.4%」となりました。本学においては12月時点で学部生は9割弱、大学院生では9割の内定率と高い数値にはなっておりますが、本学としましては、まだ活動を継続している学生に対しての支援は最優先と認識しております。これからも学内での企業セミナーや継続して採用している企業の情報を収集し一層の就職活動の支援を実施してまいります。これからの時期、「モチベーションの維持」「活動を続ける姿勢」が重要なポイントとなります。

来年度の2024年3月卒の採用選考時期も今年度と同様となりますが、採用選考の多様化や国内外の経済、政治の変動による環境の変化の可能性は高まっています。さらには2025年3月卒の学生より、本来の就業体験と認められる一定の要件を満たしたインターンシッププログラムに参加した学生についてのみは、その情報を受入れた企業は採用選考の評価に活用することが可能となります(三省合意の変更)。学生が変化に戸惑い、不利益を被らないように本学としても十分に対策をしていきます。校友会の皆様からも学生への直接的、また情報提供などの間接的なご支援も一層賜りますようお願いいたします。

## 近年の主な就職先

最近3か年の主な就職先を以下に示しました。より詳細な資料は大学ホームページ(HOME>就職・キャリア>就職実績>年度別主要就職先一覧)をご覧ください。

民間企業	3カ年 合計	2022年 3月卒	2021年 3月卒	2020年 3月卒
日本電気 (NEC)	35	11	14	10
大成建設	35	14	9	12
富士電機	35	7	15	13
東京電力ホールディングス	31	14	10	7
本田技研工業 (Honda)	23	8	7	8
いすゞ自動車	22	8	10	4
日立製作所	21	5	9	7
凸版印刷	21	13	6	2
SUBARU	20	7	9	4
東海旅客鉄道 (JR 東海)	18	5	7	6
NEC ソリューションイノベータ	18	9	6	3
東日本旅客鉄道 (JR 東日本)	17	6	2	9
清水建設	17	7	7	3
キヤノン	16	2	5	9
世紀東急工業	16	5	7	4
大和ハウス工業	15	3	6	6
富士ソフト	14	5	5	4
NSD	14	5	4	5
富士通	13	5	5	3
スズキ	13	5	4	4
日野自動車	13	8	1	4
ミネベアミツミ	13	3	4	6
前田建設工業	13	4	4	5
東急建設	13	5	5	3

公務員	3カ年 合計	2022年 3月卒	2021年 3月卒	2020年 3月卒
横浜市	25	8	7	10
渋谷区	14	4	5	5
神奈川県	12	4	7	1
東京都	11	3	5	3
世田谷区	9	3	3	3

## SDGsワークショップ（校友会 RING プロジェクト企画）を開催



事業企画委員会 RING プロジェクトの企画による“SDGs ワークショップ”を2022年7月11日(土) 14:00~15:30に開催しました。このワークショップは、SDGsについて、カードゲームを通じて体験しながら学ぶ企画で、ファシリテーターとして森井翔太氏（2016年自然科学科卒）にお願いし、2~3名のチームに分かれて、それぞれゴールを達成した。SDGsは、環境、社会、経済の繋がりが重要で、それぞれがトレードオフも関係であり、それらを楽しく学べました。

今後も卒業生間の繋がりを構築できるような企画致しますので、是非ご参加ください。

\*RING プロジェクト =Resource Innovation Next Generation = 次世代イノベーションプロジェクト  
 ⇒自然科学科の卒業生の呼び掛けで学科を問わず若い世代が集まって活動してきたグループで、2020年度から、校友会の運営に参画し、新たなイベントの企画・実施に取り組んでいます。

## 校友会活動充実のための維持会費納入のお願い

校友会では、今後の活動を維持し、更に充実したものとしていくため、維持会費の納入をお願い致します。

なお、2022年2月1日~2023年1月31日までに維持会を納入いただきました方のご芳名一覧を校友会報「都市」本号（第10号2023年3月発行）の発送時に同封しております。

<維持会費金額> 1口2,000円（1口以上何口でも結構です。）\* 税制上の控除はございません。

<納入期間> いつでも受け付けます。

<納入方法> ①添付の払込取扱票により、ゆうちょ銀行窓口・同銀行内 ATM にて通帳・カードで振込…………… 振込手数料は、無料です。

なお、現金での払込取扱票による振込み場合、振込み手数料はご負担ください。

②各銀行窓口・ATM・ネットバンキングより以下の口座に振込…………… 振込手数料は、ご負担ください。

[振込み先] ゆうちょ銀行 店名: 〇一九 (ゼロイチキュー)

預金種目: 当座 口座番号: 0451231

口座名称: 東京都市大学校友会

\* 振込の際、会員番号（会報発送封筒記載）又は卒業年・学科をご記入ください。

お問い合わせ先 東京都市大学 校友会 事務局

Tel :03-3703-3862 mail: koyukai-jimu@tcu.ac.jp

## 東京都市大学校友会リサイクル募金のお願い

皆様から読み終えた本、DVD 等をご提供いただき、その査定金額が東京都市大学校友会に寄付される取り込みです。

寄付金は、在学生支援事業に役立てられます。ご協力よろしくお願い致します。

梱包前にできるものとできないものをご確認下さい。

### 1. 梱包・申込



宅配業者が伝票をもって  
引き取りに伺います。

### 2. 査定・換金



きしゃぽんからも1件につき  
100円が寄付されます。

### 3. 寄付



お名前を添えて寄付します。

- WEB でのお申し込み（24時間） 東京都市大学校友会リサイクル募金 [kishapon.com/tcu-alumni/](http://kishapon.com/tcu-alumni/)
  - 電話でのお申し込み（9:00~18:00） ☎0120-29-7000 オペレーターに 208 とお伝えください。
- （運営協賛）リサイクル募金きしゃぽん / 嵯峨野株式会社



募金の詳細は  
こちらから



## 「2022年度定期総会」開催（対面及びリモート）



2022年度の定期総会は、ハイブリッド方式（対面及びリモート＝ZOOM）にて5月21日（土）13時より世田谷キャンパス71A教室で開催致しました。総会議事は、松村会長が議長になって、以下のとおり進めました。

議題：①2021年度事業報告⇒承認 ②2021年度収支決算報告⇒承認 ③校友会英文名制定とそれに伴う会則変更⇒承認（英文名＝Tokyo City University Alumni Association）

報告事項：①2022年度事業計画 ②2022年度収支予算 ③校友会発足10周年記念事業について ④個人情報の保護に関する規程及びプライバシーポリシーの制定 ⑤卒業生のためのキャリア支援特別部会の新設⑥維持会費についての報告とお願い⇒2021年度4,166,000円を納入していただいた報告、謝辞及び引き続きのお願いがありました。⑥東京都市大学リサイクル募金の報告とお願い⇒2021年度95,699円の寄付があった報告旨とお願い及び引き続きのお願いがありました。

議事終了後、校友会運営に功労あった方（3名）＝原口兼正氏（1974通信）、今崎一治氏（1968経営）、平世康夫氏（1968経営）、また、叙勲を受章された方（1名）＝福島正継氏についての披露並びに表象式を行いました。

（総会出席者＝対面：43名、リモート：95名、計138名）

総会の資料（2021年度事業報告、2021年度収支決算、2022年事業計画、2022年度収支予算、功労者表彰 功労者表彰及び叙勲の方々の氏名一覧等）は、校友会ホームページに掲載しておりますのでご覧ください。

総会后、講演会を行いました。（P.19をご覧ください。）



## 「全国支部長会」開催（対面及びリモート）



5月21日（土）の総会当日の10：00よりハイブリッド方式で世田谷キャンパス 73A教室において全国支部長会を開催しました。議事は以下のとおりです。

<議題>

- ①2022年度支部委員会活動計画
- ②2022年度支部総会開催にあたっての留意事項
- ③校友会発足10周年記念事業について
- ④支部におけるプライバシーポリシーのひな形について

<報告事項>

2022年度支部支援費の取り扱いについて

## 2022年度「卒業生による進路相談会」開催（対面で実施）



この催しは、在学生在が各自に適した進路を選択できるよう企業の先輩の方々にアドバイスしていただくことを目的として毎年開催しておりますが、今回は、11月30日（水）及び12月7日（水）の両日、3年振りに対面で行いました。また、校友会としての催しを強調するため、今回、企業側は、卒業生のみに参加をお願いしての実施でした。各日とも、始めに、21C教室で松村校友会会長からの挨拶、丹羽学生支援委員長からの実施要領説明、出席企業から一通り自己紹介を行った後、学生食堂に場所を移し、企業別個別相談会を40分単位で4回設定し、学生が自由に回りました。その後、学生食堂で、懇親会を行い、

企業側と学生達が自由に懇談しました。両日の参加企業は、77社、参加学生数は、279名（延べ）でした。参加した学生からは、「先輩方の貴重なお話を聞けて良かった。」「先輩方の親身な対応が嬉しかった。」等との感想が多数寄せられました。

## ～人生 100年時代～ 生涯キャリアサポートプログラム

卒業生のためのキャリア支援特別部会長 和多田 雅哉 (1984電気)

校友会では、2022年 3月に、卒業生を対象とした「キャリア支援」を行なう特別部会を立ち上げました。プログラム名称は「～人生 100年時代～生涯キャリアサポートプログラム」です。

『人生 100年時代』という言葉を目にするようになったかと思いますが、各企業などで活躍する現役世代がおかれている社会環境は、大きな変化が予測されています。このような時代には、自ら意識してキャリアを形成することで、より満足した人生を過ごすことができる時代となってきたと思われるかもしれません。今後も少子高齢化が進み、人口減少、労働人口の減少が予測される一方で、AI や VR などの技術革新により働き方にも大きな変化が予測されています。リスキリング (Reskilling)、副業、転職が注目されるなか、一つの会社で定年まで働くという終身雇用は今後更に減少し、企業に依存しない個人の働き方がより重要になってくることが予測されることから、自ら意識してキャリア形成を行うことがより重要になると言われております。卒業生の皆様が自らのキャリア形成に向けた方向や具体的な取り組みについて整理し、時代の変化に対応できる準備活動を始められる情報やきっかけを校友会が提供する、その仕組みづくり、すなわち「プラットフォームの構築」が本特別部会の目的です。

構築したプラットフォームには多様な「コンテンツ」を準備して、卒業生の皆様に提供していく取組みを進めております。具体的には、4つの「柱」=「コンテンツ」を提供する予定です。

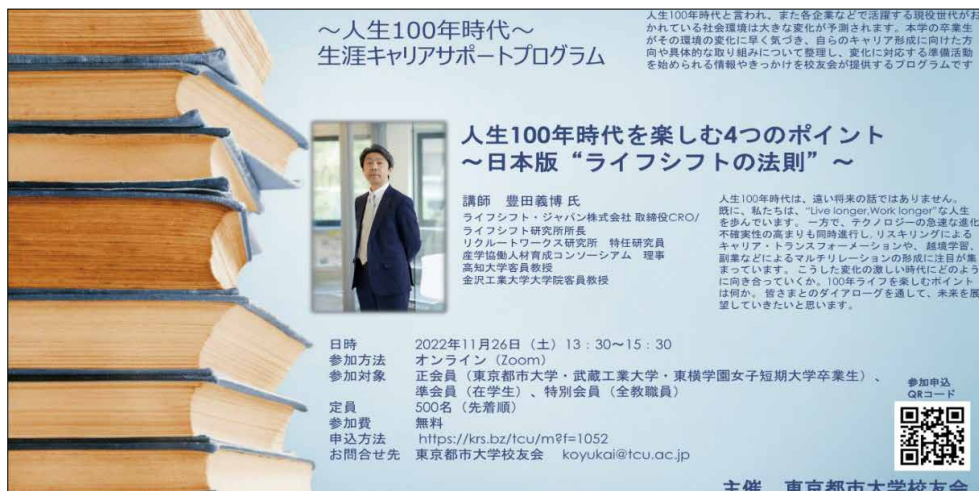
一つめは「キャリア形成を啓発する講演会」の開催です。2022年 11月 26日 (土) には、豊田義博先生 (ライフシフト・ジャパン株式会社 取締役 CRO/ ライフシフト研究所 所長) を講師にお招きして「第 1 回目」の講演会を実施致しました。大変多くの校友会会員の皆様にご参加頂き、盛況のうちに終了致しました。誠にありがとうございました。(※本講演会は、アーカイブ配信にて会員の皆様に提供予定) 今後は、年間で 1.2 回の講演会を準備する予定です。

二つめは「ワークショップ」の開催です。年間で 4 回程度を想定し、徐々にメニューを増やす予定です。例えば「キャリア形成を整理するワークショップ」や「ファイナンシャルプランに関するワークショップ」などです。

三つめは「個別キャリアカウンセリング」の実施です。国家資格を保有するキャリアカウンセラーと個別に面談できる仕組みを考えております。(1 回 45 分程度の面談を予定)

四つめは「ホームページ」による情報提供です。現在、校友会のホームページに「～人生 100 年時代～生涯キャリアサポートプログラム」のリンクページを公開しております。今後、「学び直しのリカレント教育情報」「ハローワーク活用法」「転職情報」なども提供する予定です。是非とも、本ホームページをご覧頂ければ幸いです。(以下を参照願います)

「～人生 100 年時代～生涯キャリアサポートプログラム」<https://tcu-alumni.jp/career-support/>



～人生 100 年時代～  
生涯キャリアサポートプログラム

人生 100 年時代と言われる、また各企業などで活躍する現役世代がおかれている社会環境は大きな変化が予測されます。本学の卒業生がその環境の変化に早く気づき、自らのキャリア形成に向けた方向や具体的な取り組みについて整理し、変化に対応する準備活動を始められる情報やきっかけを校友会が提供するプログラムです

人生 100 年時代を楽しむ 4 つのポイント  
～日本版“ライフシフトの法則”～

講師 豊田義博氏  
ライフシフト・ジャパン株式会社 取締役 CRO/  
ライフシフト研究所 所長  
リクルートワークス研究所 特任研究員  
産学協働人材育成コンソーシアム 理事  
高知大学 客員教授  
金沢工業大学大学院 客員教授

人生 100 年時代は、遠い将来の話ではありません。既に、私たちは、“Live longer, Work longer”な人生を歩んでいます。一方で、テクノロジーの急速な進化、不確実性の高まりも同時進行し、リスキリングによるキャリア・トランスフォーメーションや、越境学習、副業などによるマルチレーションの形成に注目が集まっています。こうした変化の激しい時代にはどのように向き合っていくか、100 年ライフを楽しむポイントは何か。皆さまとのダイアログを通して、未来を展望していきたいと思っております。

日時 2022年 11月 26日 (土) 13:30～15:30  
参加方法 オンライン (Zoom)  
参加対象 正会員 (東京都立大学・武蔵工業大学・東横学園女子短期大学卒業生)、  
準会員 (在学生)、特別会員 (全教職員)  
定員 500 名 (先着順)  
参加費 無料  
申込方法 <https://krs.bz/tcu/m?f=1052>  
お問合せ先 東京都立大学校友会 [koyukai@tcu.ac.jp](mailto:koyukai@tcu.ac.jp)

参加申込 QRコード

主催 東京都立大学校友会



## 表紙解説

勝又 英明 (1980建築)

校友会会報「都市」は本号で10号となりました。本号の表紙は世田谷キャンパスにおいて、2022年度に供用が開始された新10号館Ⅰ期と新7号館をお届けします。手前が新10号館Ⅰ期で「理工学系の教育研究施設を中心とした建物」で、奥が新7号館で等々力キャンパスより移転してきた人間科学部と都市生活学部が入っています。

この写真を撮ったのは2023年1月31日14時頃です。新10号館Ⅰ期の縦型ルーバーに程よく太陽光があたり、またルーバーに青空の映る写真となっています。

この写真は、世田谷キャンパスの「SAKURA CENTER #9」(学食、体育館がある建物。2022年にSAKURA CENTER #14から改称。)の東北角にあるガラス張りの階段室最上階から撮影しました。この最上階はベンチも置いてある休憩コーナーとなっています。新10号館Ⅰ期と新7号館の両校舎をパースペクティブに撮影できるポイントで、両校舎を見るにはベストなポイントではないかと思えます。

撮影した時点では、世田谷キャンパス旧10号館は解体中、等々力キャンパスの人間科学部、都市生活学部が使用していた校舎も解体中でした。(ちなみに新10号館Ⅰ期は旧10号館前のテニスコートに建設され、新10号館Ⅱ期は旧10号館を解体して建設されます。)2023年から2024年には「東京都市大学キャンパス再整備事業」が完遂するそうです。

2023年度の校友会総会は5月に世田谷キャンパスで行われますので、是非お越しいただき、大幅リニューアルされた(されつつある)キャンパスを体験してください。お待ちしております。



## 編集後記

羽倉 尚人 (2005エネルギー基礎)

校友会会報「都市」10号をご覧いただきありがとうございます。

本誌も10号という節目を迎えました。2009年4月に東京都市大学となり、同窓会組織としても統合し、新たなスタートを切りました。都市大となってからの卒業生も徐々に増え、社会に出ておおいに活躍されていることと思います。

2022年4月には、等々力キャンパスの2学部が世田谷キャンパス(SC)に移転し、世田谷と横浜の2キャンパス体制になりました。横浜キャンパス(YC)は、1997年に誕生し2022年に25周年を迎えました。これを記念して開設当初からいらっしゃる先生方とYCの卒業生で現在は本学教員による座談会を企画しました。

また、10号記念として、美砂会報や会報「武蔵」を振り返る特集ページを設けました。誌面の都合でごく一部しかご紹介できませんでしたが、皆さまがご卒業されたころの会報を思い出していただくきっかけになれば幸いです。

2023年には校友会10周年企画がさまざま計画されています。「人生100年時代 生涯キャリアサポートプログラム」という企画も進行しています。校友会は卒業生一人ひとりの参加で成り立っています。本誌をご覧いただいた皆さま、まずは「東京都市大学校友会」と検索してホームページをご覧ください。いろいろな取り組みが展開されていることをご覧いただけると思います。皆さまのご参加をお待ちしております。

末筆となりましたが、ご執筆いただきました皆さま、編集にご尽力いただきました皆さまおよび事務局に感謝申し上げます。

### 会報編集部会

- 部会長：藤井 研一 (1982建築)  
編集長：羽倉 尚人 (2005エネルギー基礎)  
委員：江藤 和安 (1971経営)  
委員：加藤 祐子 (1978国文)  
委員：勝又 英明 (1980建築)  
委員：衣斐喜美子 (1980家政)  
委員：和多田雅哉 (1984電気)  
委員：三川 健太 (2005環境情報)  
委員：外川 拓哉 (2022環境創生)

2023年3月19日発行

東京都市大学 校友会会報 都市 vol.10

発行人 松村 慶一

発行所 東京都市大学 校友会

〒158-8557

東京都世田谷区玉堤1-28-1

東京都市大学1号館4階

Tel.03-3703-3862

Fax.03-3703-4595

E-mail koyukai@tcu.ac.jp

URL <http://www.tcu-alumni.jp>

制作 株式会社 耕文社

印刷 有限会社 ライト社

## CONTENTS 2023 March Toshi vol.10

- 1-2 巻頭言  
東京都市大学 校友会 会長 松村 慶一  
東京都市大学 学長 三木 千壽  
東京都市大学 校友会 顧問
- 3-4 校友会2023年 10周年記念事業
- 5-6 「横浜キャンパス25周年」記念座談会
- 7-8 活躍する卒業生
- 9-13 支部だより  
秋田 / 宮城 / 山形 / 栃木 / 群馬 / 千葉 / 京滋  
兵庫 / 鳥取 / 島根 / 広島 / 大分 / 熊本 / 米国
- 14 職場支部だより  
五洋柏会 / 飛島柏会
- 15 ホームカミングデー
- 16-20 10号記念特集
- 21-26 学科だより
- 27-29 学科同窓会だより  
校友会館 自由が丘クラブ 利用案内
- 30 2022年度 就職動向と支援
- 31-32 校友会からのお祝いならびにご報告
- 33 生涯キャリアサポートプログラム
- 34 表紙解説・編集後記・CONTENTS

2023年は、東京都市大学校友会発足10周年の年です！

## 2023年度 校友会定期総会について

開催日 : 2023年 5月20日 (土) 場所 : 世田谷キャンパス

13:00~14:15

2022年度収支決算報告、同事業報告、2023年度収支予算、同事業計画その他

14:30~15:30

講演会 テーマ:「星のかけらを採りにゆく:はやぶさ2の技術とマネジメント

講師: JAXA・ISAS 宇宙飛翔工学研究系教授・はやぶさ2プロジェクト  
マネージャー 津田 雄一氏

<開催方式:ハイブリッド(対面及びリモート)>

\* 詳細については、校友会ホームページ、都市大校友オンラインメールにてお知らせ致します。



## 校友会10周年記念森山良子ディナーショーの開催について

開催日: 2023年 9月 9日 (土) 17時より

会場: セルリアンタワー東急ホテル (最寄り駅: 渋谷)

フランス料理&森山良子さんライブ

\* 詳細については、校友会ホームページ、都市大校友オンラインメールにてお知らせ致します。



森山良子さん

## ホームカミングデーの開催について

★横浜キャンパス: 2023年 9月17日 (日) <予定>

★世田谷キャンパス: 2023年11月 4日 (土) <予定>

\* 詳細は、校友会ホームページ、都市大校友オンラインメール等でお知らせ致します。

## 「都市大校友オンライン」のご案内

東京都市大学と東京都市大学校友会では、会員への情報提供に関わるサービス向上を図るため、

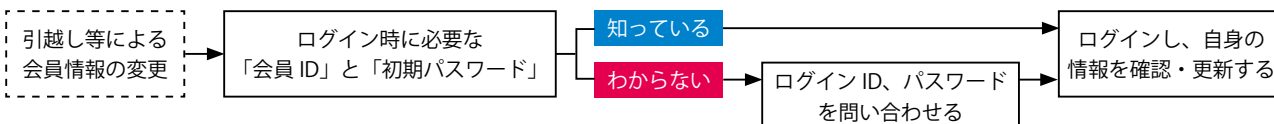
「都市大校友オンライン (https://tcu-alumni.jp/new/tcu-online/)」の運用を行っております。

- 「都市大校友オンライン」による web 版会員名簿では、開示されている情報の検索・閲覧ができます。
- web 版会員名簿の会員情報開示の可否は会員自身で設定できます。
- 「都市大校友オンライン」にログイン・登録された方には、校友会イベント等のメール案内を行っております。

### 「都市大校友オンライン」にログイン・登録をお願いします

「都市大校友オンライン」は、校友会イベントのご案内配信等様々な場面で利用され、導入の成果を上げています。

しかし、残念ながらログイン・登録された方は、全会員の16%に留まっています。より多くの方に登録していただくことが「都市大校友オンライン」の利用価値の向上に繋がります。



校友会ホームページ→「都市大校友オンライン」  
→「ログインID、パスワードの問い合わせ」

